



International SafeSchool

Toshima City Hoyu Elementary School



心ひとつに 安心できる 朋有小にしよう



Hoyu Safe Man



Hoyu Safe Chan

11.18.2015
豊島区立朋有小学校

目次

第1章 朋有小学校の概要	1
1 校名、校章、教育目標	
2 教職員と在籍児童	
3 生活時程と ISS 活動及びクラブ活動	2
4 学校を取り巻く環境	
第2章 インターナショナルセーフスクールへの取組	3
1 取組の背景	
2 2012年11月27日 ISS 認証取得からの取組状況	
第3章 外傷によるけがの状況	5
1 校内のけが	
(1) 軽微なものを含むけがの発生状況（「保健室データ」より）	
(2) 通院を要するけがの発生状況（「災害共済給付データ」より）	
(3) いじめによる心のけが（「なかよしアンケート」より）	
2 校外のけが	
(1) 交通事故による救急搬送（豊島区）	
(2) 学区内の児童の自転車事故の発生件数	
(3) 自転車ヘルメット着用率	
（「自転車ヘルメット着用についてのアンケート調査(学校)より」	
(4) 暴力や虐待による犯罪	
第4章 けがの状況に基づく課題設定	12
第5章 8つの指標に基づいた取組	13
指標1：協働を基盤に安全向上に取り組む運営基盤が整備されている	
1 インターナショナルセーフスクールの推進組織	
2 地域対策委員会	
3 地域部会	
4 カリキュラム部会	
(1) セーフスクール推進委員会	
(2) 生活指導部	
(3) 特別活動部	
(4) 研究推進部	

- 5 児童会組織
 - (1) セーフスクール委員会
 - (2) 保健委員会
 - (3) 代表委員会
 - (4) 他7委員会
- 6 P T A
- 7 巣鴨向原地域安全センター協議会

指標2：セーフスクール推進組織とセーフコミュニティに基づいた地域の推進協議会によって決定されたセーフスクールの政策がある 18

- 1 「学校安全の推進に関する計画」(文部科学省：2012.4月)
- 2 セーフコミュニティにおける学校の安全に関する方針(2010年度)
- 3 「豊島区教育ビジョン2015」による安全・安心な学校づくりの推進(2015年度)
- 4 インターナショナルセーフスクール認証校としての方針

指標3：両性、全年齢、環境、状況をカバーする長期的かつ継続的なプログラムを実施している 20

- 1 児童の危険予測回避能力の育成
- 2 学校の指導体制
- 3 良好な関係づくり
- 4 交通安全意識の向上
- 5 ハイリスク対策
- 6 環境改善

指標4：ハイリスクのグループや環境を対象としたプログラムを実施している 31

- 1 大規模地震に備えた対応
 - (1) 校舎の安全対策
 - (2) 避難訓練
 - (3) 通学路での大地震避難マニュアル
 - (4) 保護者への周知「大地震に備えて」
- 2 暑さ対策とけがの軽減対策としての新校庭
- 3 新1年生の登下校
- 4 特別支援学級(竹の子学級)
 - (1) 登下校
 - (2) 教室の配置
 - (3) スタッフの増員

指標 5 : すべての取組は根拠に基づいている 33

- 1 課題を導く原因分析
- 2 13項目の重点取組
- 3 取組内容
 - 3-1 児童の危険予測回避能力の育成
 - (1) 児童による児童意識調査
 - (2) 校内パトロールと校内危険箇所マップ作り
 - (3) 児童によるセーフスクール集会 (ISS 集会)
 - 3-2 学校の指導体制
 - (4) 体育の安全指導チェックカードと児童の安全ポイントカードの活用
 - (5) 教科等における安全指導カリキュラム
 - 3-3 良好な関係づくり
 - (6) いじめ実態調査「なかよしアンケート」に基づく対応
 - (7) 保健室における心理面でのサポート
 - (8) 異年齢集団活動「なかよし班活動」
 - (9) あいさつ運動
 - 3-4 交通安全意識の向上
 - (10) 学校、保護者、地域の協力による自転車安全教室
 - (11) 6年間活用する「自転車運転免許証」
 - (12) 自転車ヘルメット着用キャンペーン
 - (13) 交通安全及び防犯ワークショップ (子どもの安全点検マップの作成)

指標 6 : 外傷の発生頻度や原因などを記録するプログラムがある 47

- 1 校内におけるけがの記録
 - (1) 軽微なものを含むけが (保健室データ) の収集
 - (2) 通院を要するけがの記録収集 (「災害共済給付データ」より)
 - (3) いじめ実態の把握

指標 7 : 学校政策、プログラム及びそのプロセスが変化したことによる効果を評価する方法がある 53

- 1 プログラムの進行管理
- 2 重点課題における成果指標の状況
- 3 評価方法と改善

指標 8 : 国内・国際的ネットワークへ継続的に参加している 57

第 6 章 安全な学校づくりに向けての今後の取組と展望 59

1 安全な学校づくりに向けての今後の取組と展望

(1) 中・長期目標

(2) 今後の展開

第1章 朋有小学校の概要

1 校名、校章、教育目標

豊島区立朋有小学校は、2003年に長い歴史をもつ時習小学校と大塚台小学校が統合し、今年度、創立13年目を迎えました。校名と校歌に込められた開校当時の思いを受け、本校教育の特色を具現化し形づくっています。

校名の「朋有」は、論語の「朋有り遠方より来たる、また楽しからずや」という一節を教育理念に掲げ、児童が共に学び、地域を誇り、未来に生きる力を育むことを表しています。



校章

中国に伝わる伝説の大鳳が翼を広げ、朝日に飛び立つ姿を校章にしています。

＜教育目標＞
 にっこり あいさつ
 はっきり すてきなことば
 やる気いっぱい 心ひとつに

『どんなときも明るい気持ちで笑顔を忘れないで、思っていることや考えていることを、はっきり伝え合い、心ひとつにゴールを目指し、一人一人が輝いていこう。』

ほめて 共感して 考えさせる教育

2 教職員と在籍児童

表 1-1 2015.4月現在

職名	人数	内訳
校長	1	
副校長	1	
主任教諭	6	教務主任 1名 学年主任 2名 特活主任 1名 研究主任 1名 保健主任 1名
教諭	14	生活指導主任 1名 学年主任 2名
講師	8	非常勤教員 区職員
栄養士	1	
事務	1	
用務、調理員	10	民間委託

表 1-2 2015.7月現在

	男	女	合計	学級数
1年生	39	44	83	3
2年生	29	40	69	2
3年生	35	39	74	2
4年生	40	30	70	2
5年生	42	29	71	2
6年生	41	49	90	3
計	226	231	457	14
特別支援固定学級	12	2	14	2
合計	238	233	471	

* 特別支援学級とは、教育上特別に支援が必要な児童のための学級です。

3 生活時程と ISS 活動及びクラブ活動

【月～金曜日】	としま土曜公開授業
登校 8:05～ 8:15	8:05～ 8:15
朝会・集会 8:20～ 8:35	8:20～ 8:35
朝の会 8:35～ 8:45	8:35～ 8:45
1校時 8:45～ 9:30	8:45～ 9:30
2校時 9:35～10:20	9:35～10:20
中休み 10:20～10:40	10:20～10:40
3校時 10:40～11:25	10:40～11:25
4校時 11:30～12:15	帰りの会・下校
給食 12:15～13:05	11:25～11:35
昼休み 13:05～13:20	
清掃 13:20～13:35	
5校時 13:40～14:25	
6校時 14:30～15:15	
帰りの会・下校 15:15～15:25	
※月曜6校時はISS活動又はクラブ	

【ISS活動】
セーフスクール委員会
代表委員会 放送委員会
図書委員会 保健委員会
集会委員 給食委員会
運動委員会 環境委員会
飼育栽培委員会

【クラブ活動】
マンガ・イラストクラブ
手芸クラブ 料理クラブ
球技クラブ 科学クラブ
造形クラブ 卓球クラブ
ダンスクラブ 器楽・合唱クラブ
バドミントンクラブ
陸上クラブ パソコンクラブ

4 学校を取り巻く環境

立地状況

本校は、日本有数の高密自治体である豊島区において、東京の主要ターミナル駅の一つである池袋駅から約1km東に位置します。サンシャイン60をはじめとする高層ビルに囲まれ、JR山手線、地下鉄、都電荒川線や首都高速道路、春日通りなど主要交通網が集中するという極めて都市的な環境に立地しています。

周辺地域の概要

駅周辺の繁華街や幹線道路沿いの商業中心の地域と、高密な住宅地域に囲まれ、近年は高層及び超高層マンションが建設され、さらなる高密化とともに、新住民の流入が進んでいます。また、学区内での不審者情報も寄せられています。

このように学区は多くの危険要因をもつ「高密都市としま」を象徴する環境にあります。

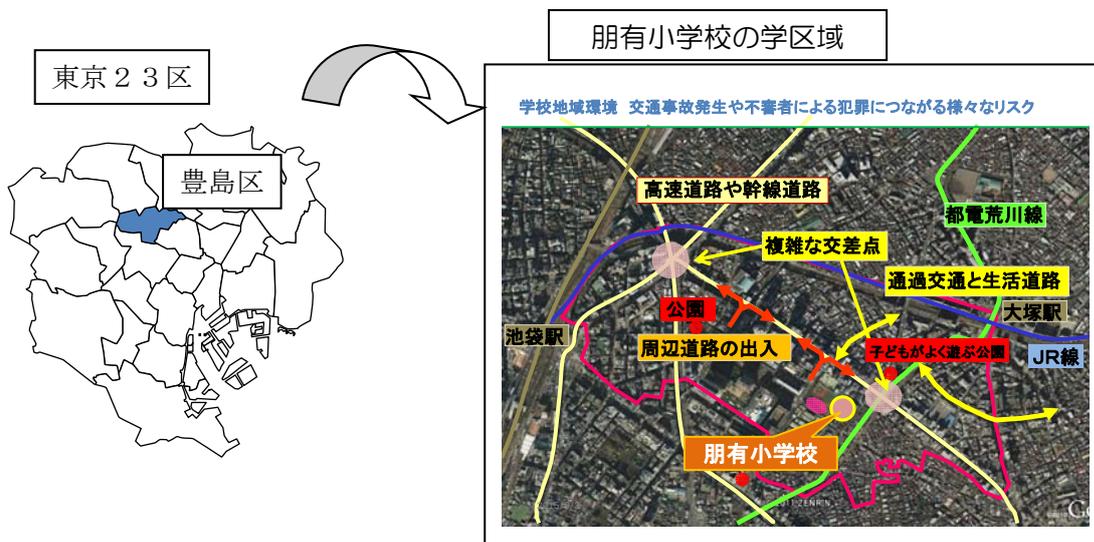
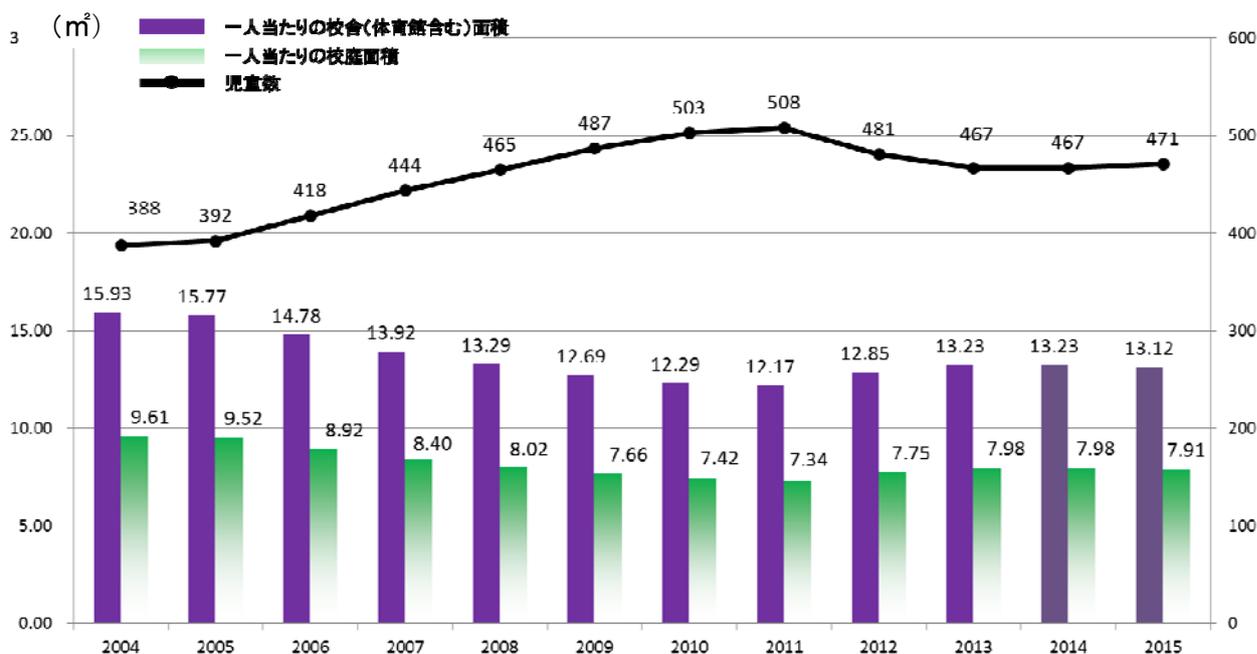


図 1-1 朋有小学校の立地および周辺地域の状況

図 1-2 一人当たりの校舎・校庭面積の推移

*2013 年度に校庭改修を行いました。



第 2 章 インターナショナル・セーフスクールへの取組

1 取組の背景

こうした都市的環境の中にある 2 校（時習小学校・大塚台小学校）の統合により、通学区域が広域化し、児童の登下校に当たっては、交通事故等の多くの危険要因を回避する必要があります。

また、隣接校選択による通学区域外からの児童も数多くいます。そのため、校庭や体育館を使用する児童一人当たりの密度が高くなり、けがが発生しやすい状況が生まれています。

インターナショナルセーフスクール認証校として、児童の危険予測回避能力の育成や区民ひろばを中心とした地域・保護者と連携した児童の見守り体制を構築したいと考えています。

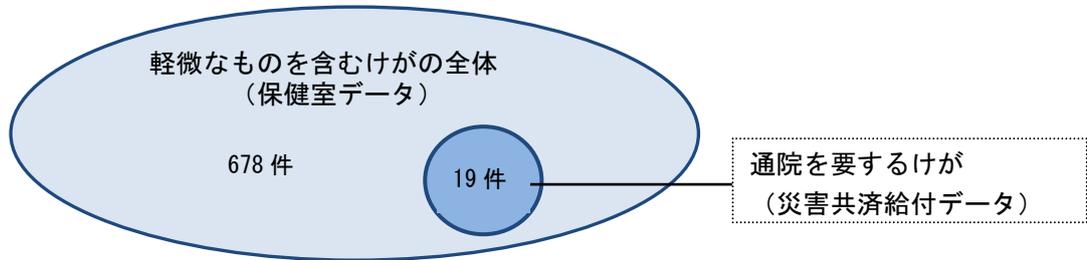
保護者・地域	児童	教員	行政
あいさつ運動 (2012年4月～)	ISS 集会 (2013年2月)		
	台湾市立清心小学校を視察(2013年3月)		
	広報誌「めざせセーフスクール朋有小」3号(2013年3月)		
	自転車安全教室 (2013年5月)		
	ISS 集会・秩父市より ISS 認証を目指す学校、教育委員会来校 (2013年7月)		
	厚木市立清水小学校 ISS再認証式(2013年11月)		
	創立10周年記念(2013年11月)		
	豊島区教育推進校研究発表(2014年1月)		
	ISS 集会 (2014年2月)		
	豊島区立富士見台小学校との交流①(2014年3月)		
	台北市文山区訪問団が視察(2014年3月)		
	広報誌「めざせセーフスクール朋有小」4号(2014年3月)		
	自転車安全教室 (2014年5月)		
	朝日小学生新聞取材(2014年6月)		
	子どもの安全点検 マップワークショップ (2014年10月)	ISS 研修会(2014年8月) 講師：パクナムス先生、白石陽子先生	
文化放送「福井謙二グッモ」出演(2014年9月)			
日本テレビ「ニュースゼロ」放送(2014年10月)			
区民ひろば朋有との交流 (2014年11月)			
ISS 集会 (2015年12月)			
広報誌「めざせセーフスクール朋有小」5号(2014年12月)			
十和田市より来校：ISS 先進地調査視察(2014年12月)			
ISS 集会・デコレーションヘルメット授業 (2014年12月)			
ISS 集会・子どもの安全点検マップ発表 (2015年2月)			
自転車安全教室 (2015年5月)			
アジア認証センターによる ISS 再認証現地事前審査(2015年6月)			
豊島区立富士見台小学校との交流②(2015年6月)			
ISS 集会 (2015年7月)			
広報誌「めざせセーフスクール朋有小」6号(2015年8月)			
豊島区立富士見台小学校との交流③(2015年9月)			
区民ひろば朋有との交流 (2014年11月)			
ISS 再認証現地本審査(2015年11月)			

第3章 外傷によるけがの状況

1 校内のけが

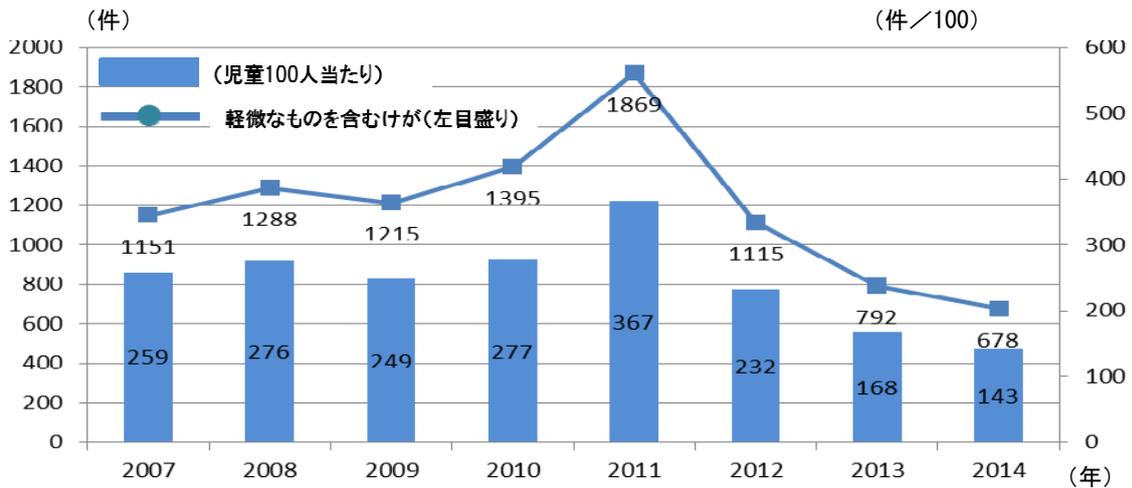
校内で発生したけがは保健室データとして収集します。その中で、通院する必要がある症状のけがについては、災害共済給付データとして収集します。

図 3-1 校内で発生したけが (2014 年度)



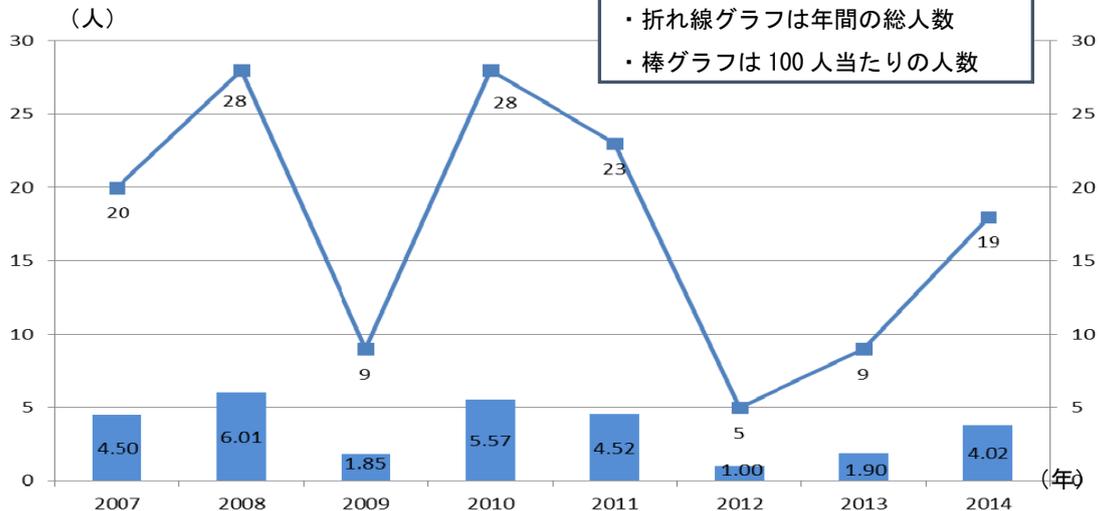
※災害共済給付とは、児童・生徒が学校の管理下で「けが」などをした時に、保護者に対して給付金を（災害共済給付）を支払う制度です。全ての区立小中学校で「けがの状況、種類や原因について記録し、年1回分析をしています。

図 3-2 軽微なものを含むけが（「保健室データ」より）



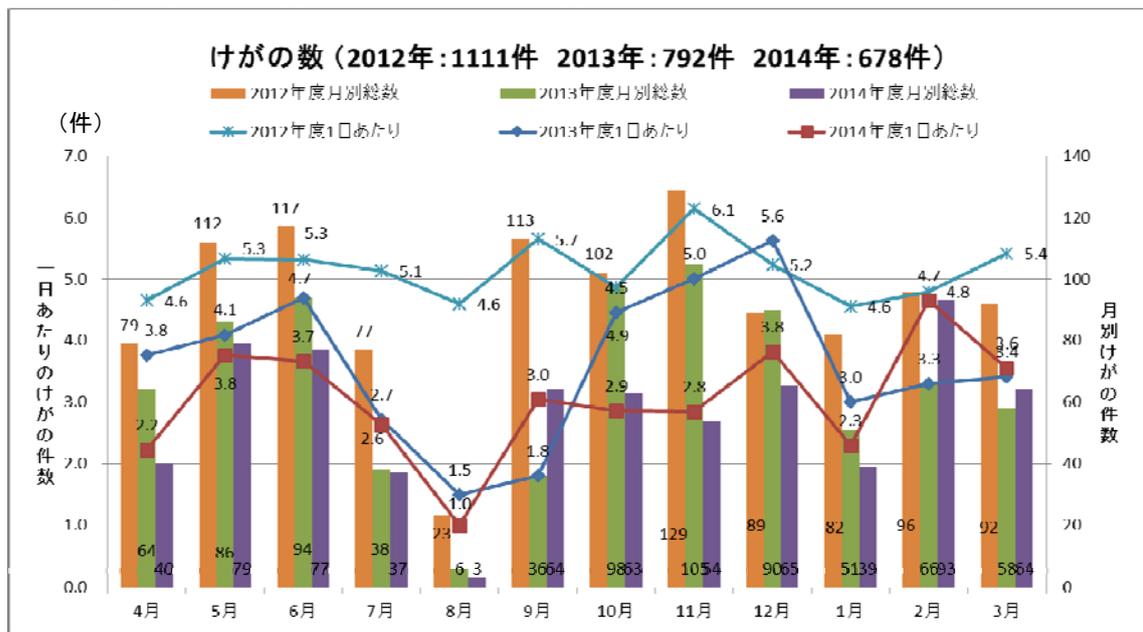
※2012 年度よりけがの発生件数が減っています。

図 3-3 通院を要するけが（「災害共済給付データ」より）



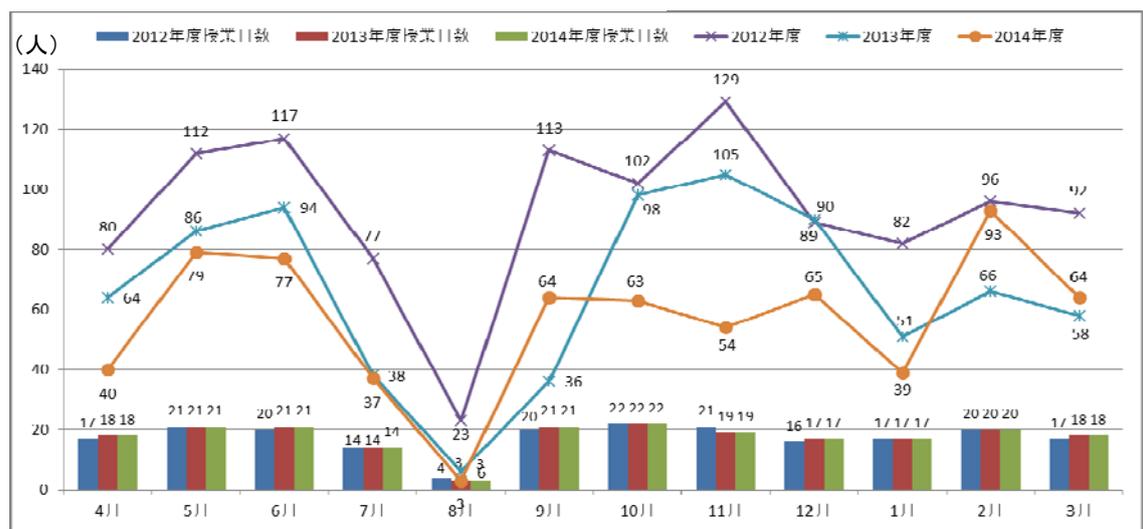
(1) 軽微なものを含むけがの発生状況（「保健室データ」より）

図 3-4 年間の処置件数の推移（2012・2013・2014 年度）



*2012 年度以降、セーフスクールの取組により、年々けがの件数が減少しています。

図 3-5 授業日数と月別けがの件数（2012・2013・2014 年度）



* 8 月は夏季休業中のため件数が減少しています。

図 3-6 学年男女別のけが（2012・2013・2014 年度）



全体的にはけがの減少が見られます。特に 2012 年度から 2013 年度にかけて、けがの件数が半減しています。

図 3-7 時間帯別のけが(2012・2013・2014 年度)

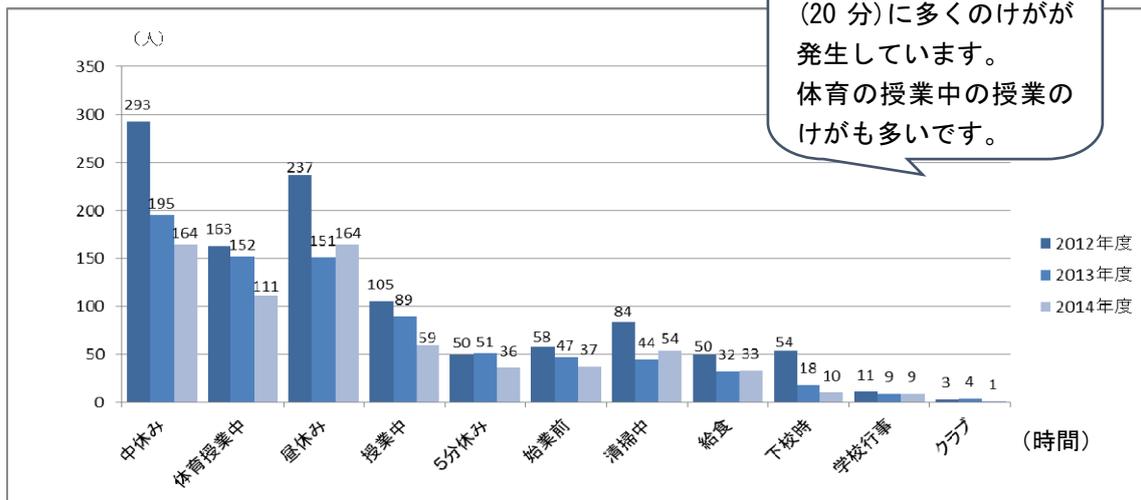


図 3-8 場所別のけが(2012・2013・2014 年度)

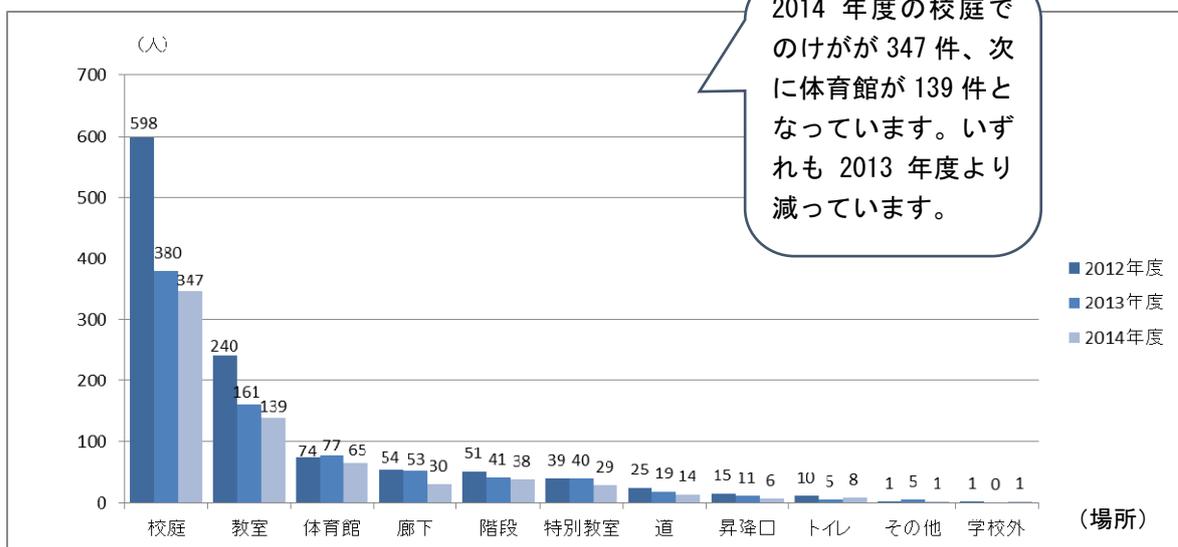


図 3-9 症状別のけが(2012・2013・2014 年度)

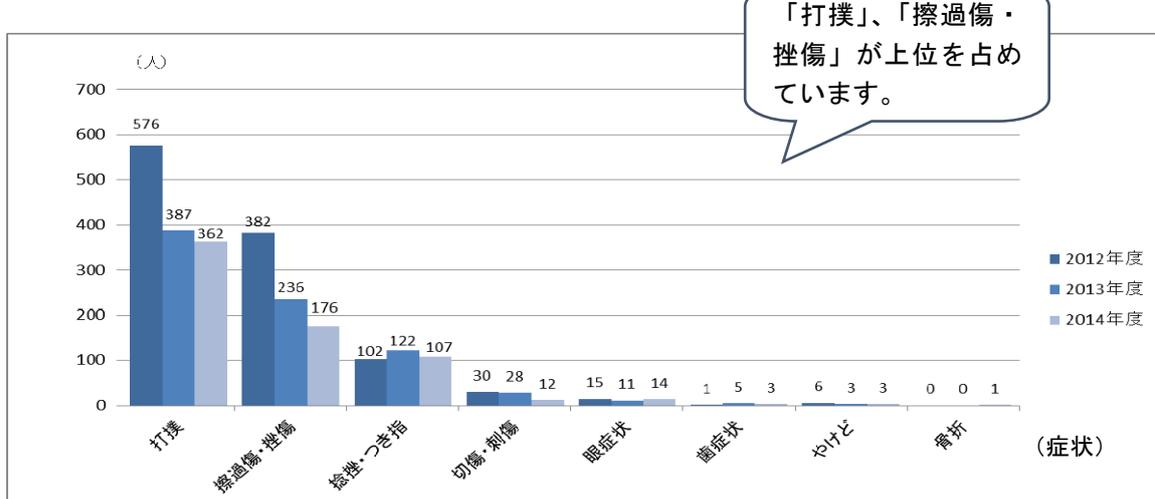
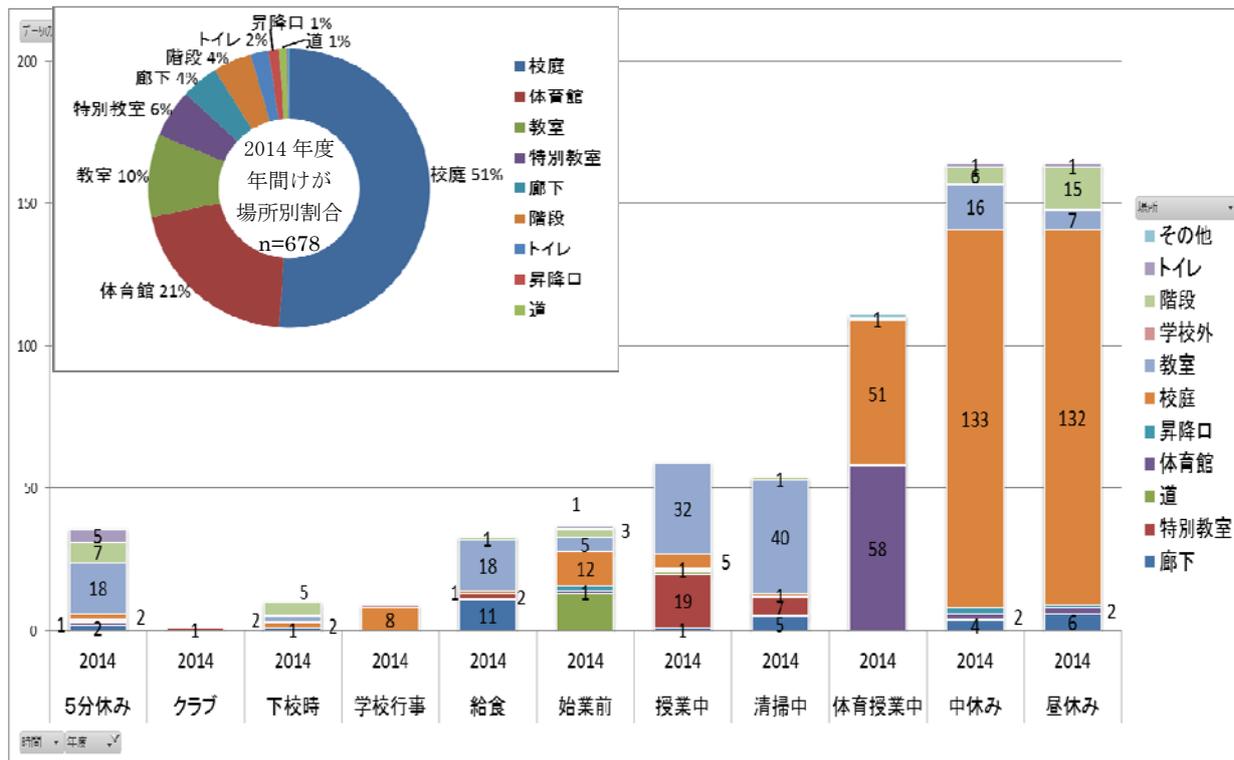


図 3-10 けがが発生している時間と場所(2014年度) 「保健室データより」



<まとめ>

* 2014年度のけがが発生している時間と場所をクロスしてとらえると、全体的に校庭のけがが多く51%です。時間で見ると、中休み・昼休みの休み時間に48%ものけがが発生しています。また、このグラフからも分かるように、体育の授業中のけがが多いです。

(2) 通院を要するけがの発生状況（「災害共済給付データ」より）

表 3-1 発生率推移の区内平均との比較

	朋有小学校	豊島区
2012 年度	1.02% (5/489)	3.70% (263/7114)
2013 年度	1.93% (9/467)	4.03% (291/7226)
2014 年度	4.02% (19/473)	2.89% (211/7311)

*けがの発生率＝通院を要するけがの数÷全児童数

表 3-2 3 カ年の通院を要するけがの場所・時間帯別発生率

	2012	2013	2014	合計
児童数	489	467	473	1429
校舎内	2	7	8	17 (1.19%)
校舎外	3	2	11	16 (1.12%)
授業中	0	2	5	7 (0.49%)
休み時間	5	7	11	23 (1.61%)
給食・清掃	0	0	2	2 (0.14%)
課外	0	0	1	1 (0.07%)

図 3-11 3 カ年の通院を要する場所別発生率グラフ

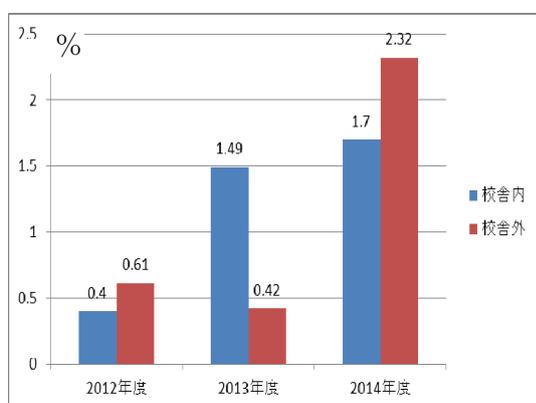
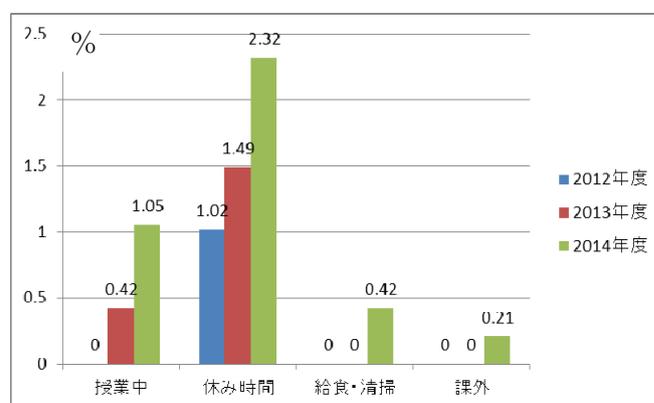


図 3-12 3 カ年の通院を要する時間帯別発生率グラフ



* 通院を要するけがの割合は、それほど高くありませんが、グラフから分かるように 2014 年度は、校舎外でのけが、休み時間のけがが多いです。

(3) いじめによる心のけが（「なかよしアンケート」より）

本校は、いじめのない、明るく楽しい安心して過ごせる学校を目指しています。いじめは、自分より弱いものに対して、一方的に身体的・心理的な攻撃を継続的に加え、相手が深刻な苦痛を感じているものであり、絶対的に許されない人権侵害です。いじめは、外傷ではなく、「心のけが」として簡単に修復できないものと考え、重要視しています。

本校では、心のけが、いじめを防止するために、4～6 年生は毎月 1 回、なかよしアンケートを実施しています。(P51 参照) なかよしアンケートの結果や児童の様子からいじめが起きた場合は、担任・学年主任だけでなく、生活指導主任・管理職も入り、いじめ緊急対策委員会を開きます。いじめる側の指導、いじめられた側の児童のケア、そして保護者への対応等を確実に実行します。いじめ解消後も、児童の様子をしっかりと見取り再発防止に努めます。

<「なかよしアンケート」調査項目より：P51・52 参照>

児童自身がいじめを受けていますか。

友だちがいじめにあっていますか。

一方的に嫌なことをされる。
 仲間はずれにされる。
 ぶったり、蹴ったりされる。
 みんなから無視される。
 携帯やメールで悪口を言われる。
 その他

表 3-3 いじめの発生状況（「なかよしアンケート」より）

	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
いじめの疑い いじめ件数	7	3	4	2
解消件数	7	3	4	1
継続指導中	0	0	0	1

セーフスクールの取組により、いじめに対する児童の意識が高まっていますが、毎年、いじめの疑い、いじめが発生しています。
* 2015 年度は 7 月現在

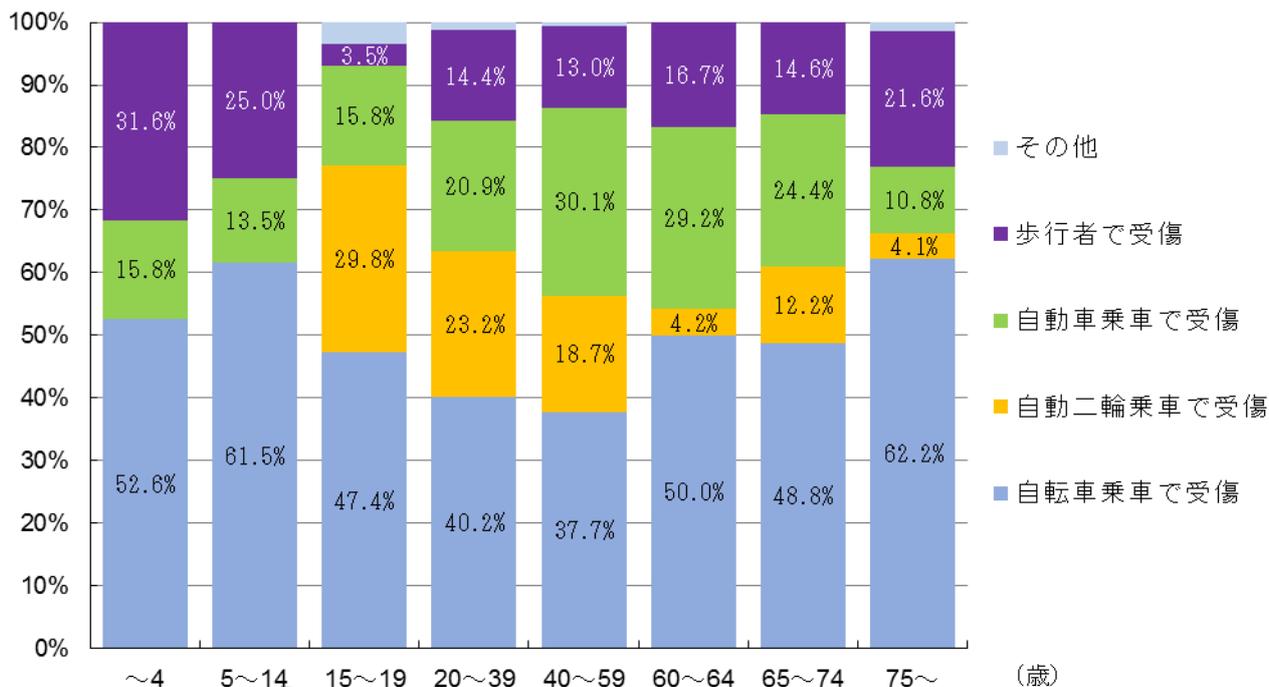
*2014 年度より、いじめ、いじめの疑いがある場合は、いじめ対策委員会を開き、すぐに対応しています。すぐに解消できた場合と数カ月指導して解消した場合があります。

2 校外のけが

(1) 交通事故による救急搬送（豊島区）

豊島区全体の交通事故状況を年代別にみると、5～14 歳では自転車乗車中の事故の割合が 61.5%と高くなっています。

図 3-13 年代別交通事故の発生状況（救急搬送データ）（2013 年度）



豊島区では、75 歳以上に次いで 5～14 歳の自転車乗車通のけがが多いです。

(2) 学区内の児童の自転車事故の発生件数

過去3年間に発生した学区内における朋有小学校児童の交通事故は0件です。

保護者・地域の見守りとともに、安全指導や担任からの毎日一声運動をすることで、事故無く安全に過ごすことができます。

表 3-4 最近3年間の発生状況（「豊島区教育委員会報告データ」より）

	2013年度	2014年度	2015年度
件数	0	0	0
状況	—	—	—

(3) 自転車ヘルメット着用率（「自転車ヘルメット着用についてのアンケート調査(学校)より」

本校の児童は、歩いて登下校します。登校時は登校班による集団登校で保護者に見守られながら登校します。ですから、児童が自転車に乗車するのは、下校してからになります。

本校の学区は、交通量の多い大きな道路や幹線道路、道幅の狭い道路など様々です。児童がそうした環境の中で自転車に乗車することを考えると、自転車ヘルメットを着用して乗車することがきわめて重要になります。

表 3-5 最近3年間の自転車ヘルメット着用率

	2013年度	2014年度	2015年度
1年	73%	78%	90%
2年	70%	84%	89%
3年	55%	65%	94%
4年	48%	46%	67%
5年	35%	32%	31%
6年	27%	11%	12%
竹の子	78%	38%	70%
合計	51%	50%	62%

2015年度の3年生は2014年の12月にヘルメットデコレーション授業を行ったこともあり、着用率も上がっています。
* 2015年度は7月現在

(4) 暴力や虐待による犯罪

「暴力行為」とは、「自校の児童生徒が、故意に有形力（目に見える物理的な力）を加える行為」をいい、被暴力行為の対象によって、「対教師暴力」（教師に限らず、用務員等の学校職員も含む。）、「生徒間暴力」（何らかの人間関係がある児童生徒同士に限る。）、「対人暴力」（対教師暴力、生徒間暴力の対象者を除く。）、学校の施設・設備等の「器物損壊」の四形態に分ける。ただし、家族・同居人に対する暴力行為は、調査対象外とする。（問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査より抜粋）

表 3-6 文部科学省 平成26年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査結果

	2013年度	2014年度	2015年度
件数	0	0	0

本校では、暴力や虐待の疑いがある場合は、早急に関係諸機関（警察、児童相談所、子ども家庭支援センター、教育委員会等）と連携を図り対応します。ほとんど事例がないので、重点課題にはなっていません。

第4章 けがの発生状況に基づく予防対象の設定

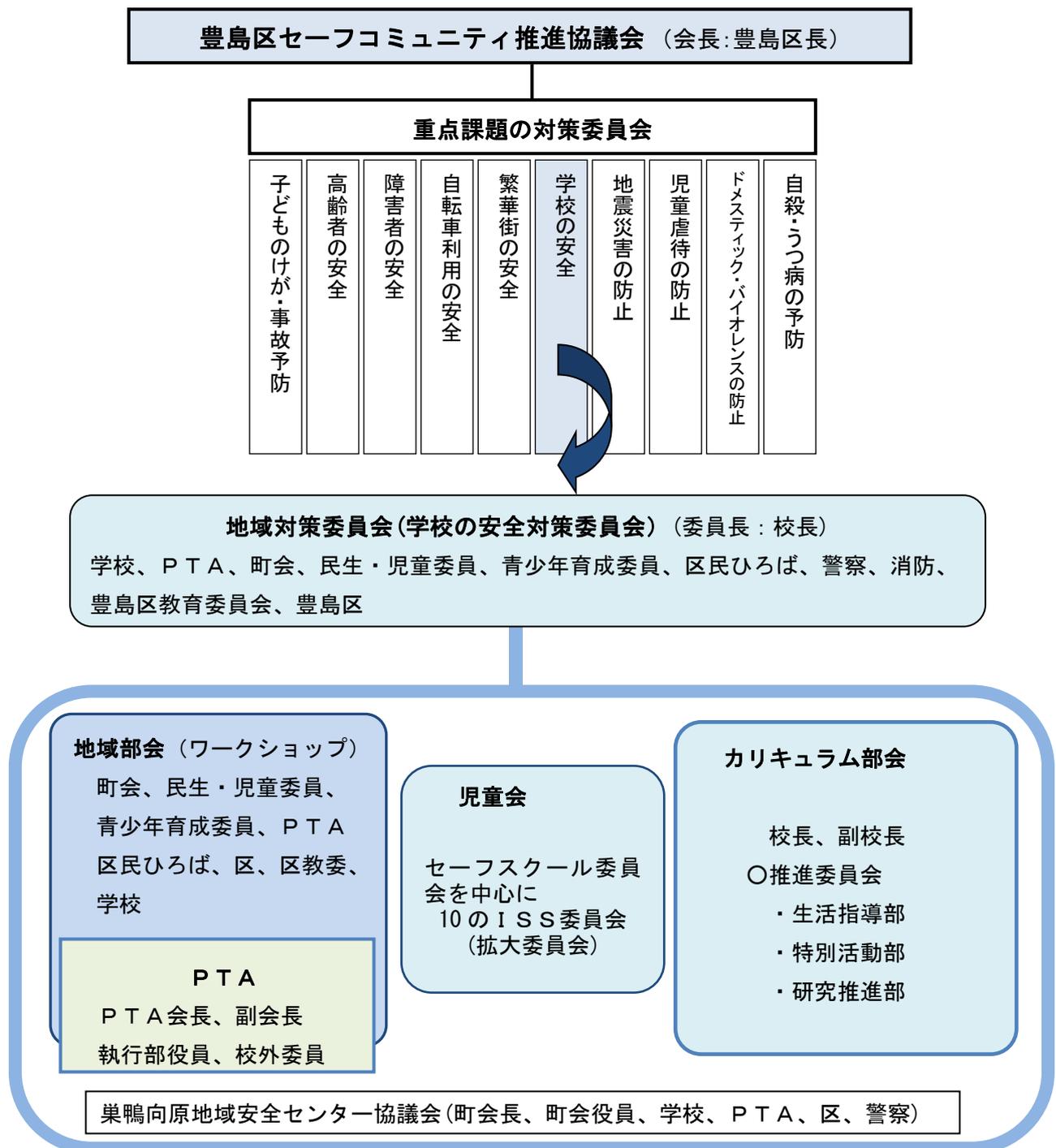
けがの発生状況を踏まえて、校内及び校外におけるけがの発生状況から予防対象を設定し、予防活動を行います。

けがの発生状況		予防対象
校 内	<ul style="list-style-type: none"> ○ 軽微なけがを含むけがの全体像をみると、休み時間の校庭でのけがが多く、全体の51%です。 (図3-7、図3-8) ○ 授業中のけがでは体育の時間が多く、2013年度は152件、2014年度は111件です。(図3-7) ○ 通院を要するけがの発生を時間帯・場所別で分析すると、休み時間中の校庭におけるけがの発生率が高い状況です。(図3-11、図3-12) ○ 通院を要するけがの発生率は、2012年度1.02%、2013年度1.93%、2014年度4.02%と高くなっています。(表3-1) ○ 心のけがの発端となるいじめは、一旦は解消されても再発することがあります。(表3-3) 	休み時間の校庭のけが 体育のけが 心のけが (校内におけるけが)
校 外	<ul style="list-style-type: none"> ○ 過去3年間に発生した学区内における朋有小学校児童の交通事故は0件です。(表3-4) ○ 豊島区全体の交通事故状況を年代別にみると、5～14歳では自転車乗車中の事故の割合が61.5%と高くなっています。(図3-13) ○ 最近3年間の自転車による事故発生はありません。しかし、児童を取り巻く交通環境を考えると、自転車ヘルメット着用がきわめて重要です。(表3-4、表3-5) 	自転車による交通事故 (校外におけるけが)

指標1 協働を基盤に安全向上に取り組む運営基盤が整備されている

1 インターナショナルセーフスクールの推進組織

本校は、豊島区セーフコミュニティ推進協議会の学校の安全対策委員会と地域対策委員会に所属し、協働を基盤に安全向上に取り組んでいます。PTA、地域、巣鴨向原地域安全センター協議会など、児童の交通事故の防止や不審者対応などの防犯を目指す地域部会、教員組織からなるカリキュラム部会があります。こうした組織のバックアップを受け、児童会組織が活動しています。



2 地域対策委員会

セーフスクールの推進役となる地域対策委員会は校長を委員長とし、町会、民生・児童委員、青少年育成委員、区民ひろば、PTA役員、巢鴨警察、消防署、豊島区教育委員会、豊島区で構成しています。学期に1回開催され、学校や地域の取組の報告や課題について共有をしています。また、定期的に委員会を開催するとともに、広報誌を発行しています。

表 1-1

	開催日	活動内容
2013年	12月 5日	年間レポート報告
	2月27日	ISS 取組説明
2014年	7月15日	取組の中間報告と今後の方針
	12月 2日	2学期活動評価
	3月 5日	プレ審査に向けて
2015年	5月18日	プレ審査、本年度の活動について
	12月 7日	申請書・現地審査について
	2月15日	現地審査を終えて

3 地域部会

地域部会は、児童を取り巻く危険な環境を取り除くために課題を把握し共有し計画的に取り組めます。2013年度は、2012年度に作成した通学路危険箇所マップをもとに、危険箇所の改善を図りました。2014年度は、通学路危険箇所に防犯を新たに加え、「子ども安全点検マップ」を作成しました。



表 1-2

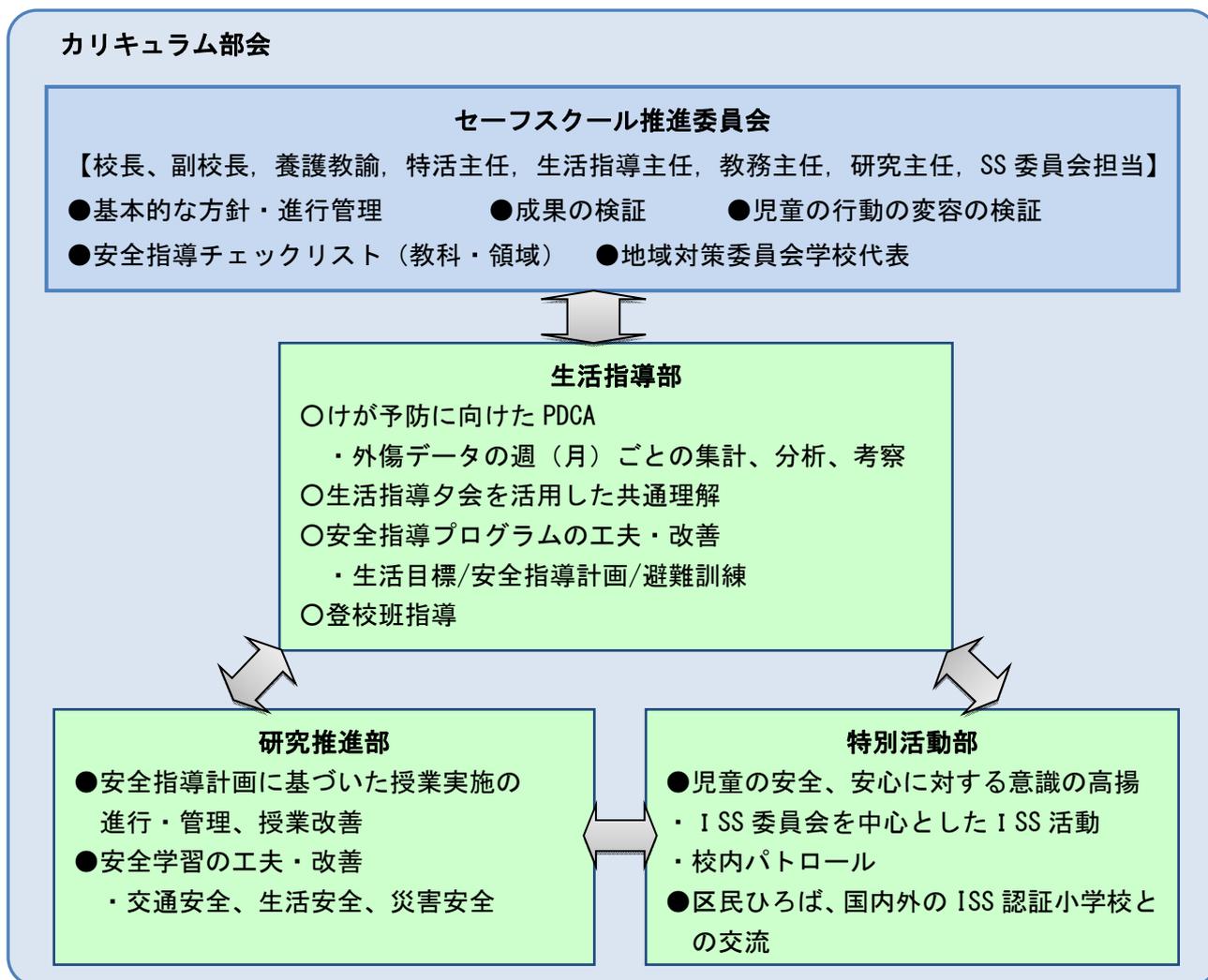
分類	団体・組織
住民組織	巢鴨向原地域安全センター協議会代表
	町会長
	青少年育成関係団体代表
	PTA
学校組織	学校代表
行政機関	警察署・消防署 関係者
	豊島区

表 1-3

	開催日	活動内容
2014年	7月19日	PTA親子お楽しみ会(アンケート回収、2学期始業まで)
	10月 1日	子どもの安全点検マップワークショップ事前打ち合わせ(第1回)
	10月 4日	子どもの安全点検マップワークショップ(第2回)
	11月 4日	子どもの安全点検マップ作成打ち合わせ
	11月27日	子どもの安全点検マップ作成打ち合わせ
	2月 7日	ISS集会で子どもの安全点検マップ発表
	1月15日	ISS集会打ち合わせ
	2月 2日	ISS集会打ち合わせ
	2月 6日	ISS集会リハーサル

4 カリキュラム部会

カリキュラム部会は、教員で構成するセーフスクール推進委員会が企画・調整を行い、生活指導部、研究推進部、特別活動部で課題を共有し課題解決に向け取組みます。けがデータや意識調査をもとに、原因分析や考察を行い、予防対策を組織的・継続的に行います。安全な教育環境づくりの連携のサイクルを形成しています。



(1) セーフスクール推進委員会

校長の下、三部会（生活指導部会、研究推進部会、特別活動部会）が連携する委員会を組織し、取組の課題を共有するとともに、推進の企画・調整を行います。

(2) 生活指導部

収集した保健室のデータの分析・考察を行い、情報を発信します。ここから、特別活動部・研究推進部に、児童会活動や校内研究の問題を投げかけます。

全職員に対しては、生活指導夕会（木曜日）を開催し、推進課題の共通理解を図ります。

(3) 特別活動部

外傷データをもとに安全・安心の意識を高揚させ、児童の主体的な活動の支援を行います。

セーフスクール委員会を中心に目的意識をもって活動するための問題提起をします。

国内外のISS認証校との交流発展にもつなげていきます。

(4) 研究推進部

児童の身近な生活安全や交通安全、災害安全について児童自らが危険を予測し、回避する能力を高めるとともに、安全に運動にかかわる課題解決力の育成を目指したカリキュラムの工夫・改善を図ります。

5 児童会組織

セーフスクール委員会、代表委員会、保健委員会が連携してセーフスクール活動を先導します。他の7委員会（環境、運動、図書、飼育栽培、給食、集会、放送）がそれを支えています。

2015年度から各委員会の委員長によるISS拡大委員会を設け、より組織的に学校の安全、安心について課題を共有し、活動しています。



(1) セーフスクール委員会

ISSの取組の中心となる委員会です。4年生以上の学級代表24名で構成しています。

全校児童を対象に学期に1回「子どもアンケート」を実施します。この結果をもとに対策を検討し、ISS集会で発表します。このサイクルが安全への意識向上につながっています。

また「校内危険箇所マップ」を作成し、セーフロードに掲示します。すぐに改善できることは、全校に呼び掛け、改善が難しい施設については校長に要望し、安全対策に取り組んだりしています。

活動の中で、児童のアイデアから生まれたイメージキャラクター「セーフマン」が、取組の先頭に立って、ISS活動を応援しています。



(2) 保健委員会

保健室に来室するけがの発生場所や学年をもとにシールを張り「けがのひやりマップ」を作成しています。それをもとに、月1回セーフニュースを発行します。

(3) 代表委員会

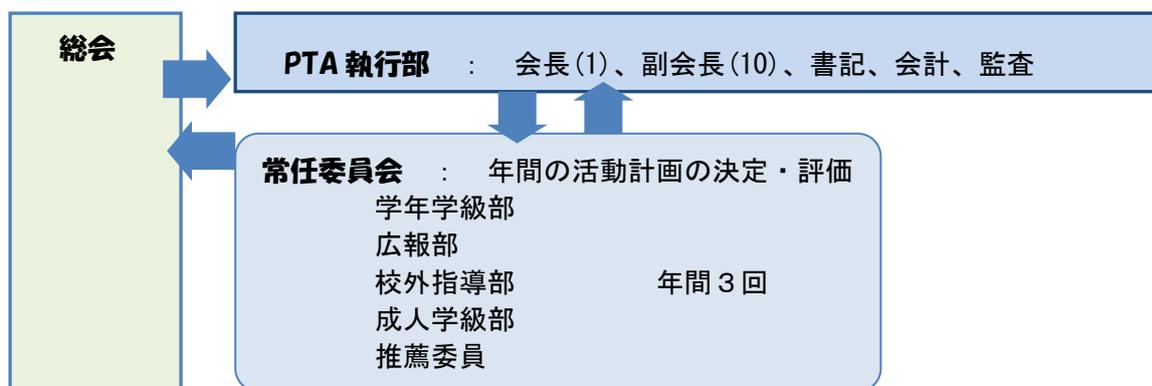
セーフスクール委員会の活動をサポートするとともに、大きな集会の企画運営やユニセフの募金活動などを行っています。

(4) 他7委員会

運動委員会	校庭で安全に遊べるよう、休み時間中や終了時に遊具の使い方、片付け方を見回り、声かけをしています。
環境委員会	各委員会活動の様子を写真に撮り掲示し、セーフスクールへの取組の宣伝活動をしています。また、廊下階段でぶつかりけがをしないよう、右側通行の矢印マークをつけ、校舎内の歩行のルールを守り安全に生活できるようにしています。
飼育・栽培委員会	ウサギを育てる知識や生態をポスターや集会で伝え、命の大切さを呼びかけています。
図書委員会	図書館(ゆめのくに)で、安心して本を読み心豊かになれるよう、図書館の使い方ルールを守るためのポスターを作成し、休み時間の貸し出しを行っています。
集会委員会	楽しい集会を企画するとともに、セーフスクール委員会や保健委員会等と連携し、セーフスクール集会を計画して、安心な学校づくりを目指しています。
放送委員会	図書委員会と連携し、安心、安全に関する本の読み聞かせをお昼の放送で流したり、休み時間の前に「ろうか階段を走らない」注意を促す放送を入れたりして、安全に生活できるよう放送しています。
給食委員会	食器の破損によるけがをなくすため、食器を割っていない学級を月一回全校朝会で表彰しています。また安全に給食が食べられるよう、マスク・ランチョンマット着用のポスターを作成し食中毒予防を呼びかけています。

6 PTA

PTA総会で選ばれた保護者が役員となり、全保護者に呼びかけ、セーフスクールの活動を推進しています。



7 巣鴨向原地域安全センター協議会

2007年に、向原交差点の交番の廃止に伴い、住民が豊島区と巣鴨警察と連携して防犯組織を立ち上げました。定期的な地域の見守り活動を通して、安心な地域環境づくりに取り組んでいます。

指標2 セーフスクール推進組織とセーフコミュニティに基づいた地域の推進協議会によって決定されたセーフスクールの政策がある

1 「学校安全の推進に関する計画」(文部科学省：2012.4月)

文部科学省は、2012年4月に今後5年間(2012～2016)の学校安全の推進に関する施策の基本的方向を発表し、実証的で科学的な学校安全の取組推進として、セーフスクールの取組を推奨しました。

○ セーフティプロモーションの考えに基づいた施策の展開

- ・ 事件・事故災害に関する情報収集体制の整備・充実
- ・ 実証的な安全管理につなげる分析調査機能の強化
- ・ 優れた取組事例(ISSなど)の推奨

2 セーフコミュニティにおける学校の安全に関する方針(2010年度)

豊島区セーフコミュニティ推進協議会の下にある、「学校の安全」対策委員会において基本的な政策を協議し、地域対策委員会で決定したセーフスクールの活動を進めています。

課題	予防対象	対策
1 児童の危険予測回避能力の育成	校内のけが 2013年度 792件 2014年度 678件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童による意識調査 ・ 校内パトロールと校内危険箇所マップづくり ・ ISS集会
2 学校の指導体制		<ul style="list-style-type: none"> ・ 体育の安全チェックカード ・ 教科等における安全指導カリキュラム
3 いじめの防止	心のけが 2013年度 3件 2014年度 4件	<ul style="list-style-type: none"> ・ なかよしアンケート ・ 保健室における心理面サポート ・ 異年齢集団活動 ・ あいさつ運動
4 交通安全意識の向上	自転車における交通事故(校外におけるけが) 2013年度 0件 2014年度 0件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自転車安全教室 ・ 6年間活用する「自転車運転免許証」 ・ 自転車ヘルメットキャンペーン ・ 交通安全及び防犯ワークショップ

3 「豊島区教育ビジョン2015」による安全・安心な学校づくりの推進(2015年度)

「教育都市としま」の指針である豊島区教育ビジョン2015は、豊島区の学校教育の振興施策に関する基本計画と位置づけています。その実施施策の中に「安全・安心な学校」があります。

安全・安心な学校(実施施策番号54)

インターナショナルセーフスクール再認証取得を目指す朋有小学校、認証取得を目指す富士見台小学校の実践を基に、データに基づく科学的な手法を、全小中学校規模に広げ、安全で安心な教育環境づくりを推進する。

4 インターナショナルセーフスクール認証校としての方針

○「おとりが巣立つ教育」プラン（学校経営方針）

校章のモチーフとなった「鳳」をイメージし、卵からかえった雛が、学ぶ喜びや達成感をもち、未来に向かって巣立っていく教育を目指しています。

そのために、国、東京都、豊島区セーフコミュニティ、豊島区教育委員会の方針を受け、安全、安心な教育環境づくりに努め、素敵な自分をもっていることを実感する教育を基本とし、自己肯定感を育む学校教育を創造しています。

- 創立13年目を迎え、改めて地域社会とともに、教育目標に掲げる「笑顔で始まり、自分の言葉で気持ちを伝え合い、本気で力を発揮する安全で安心な学校」を目指します。
- 東日本大震災は、大規模地震への備えや地域のつながりの大切さを教訓としました。
児童の命を守るために、学校と保護者・地域の一層の連携を図ります。
- 国内外へ発信するインターナショナルセーフスクール認証校を目指します。
現地審査を経て再認証を得るために、保護者・地域とともに、全児童全教職員で取り組みます。

○ 児童会活動のスローガン（2011.7月～）

心ひとつに 安心できる 朋有小にしよう

児童は2011年7月に当時のセーフスクール委員会が提案し、ISS活動のスローガン「心ひとつに安心できる朋有小にしよう」を継続して積極的に取り組んでいます。

このスローガンは、児童が主体となり活動するための合言葉として、年度始めの児童集会でISS委員会の委員長紹介及び活動内容と一緒に、全児童に発表し誓います。



○ PTAによる安全な学校づくりに関する方針（2012.4月～）

保護者は、「地域に誇れる安全で安心な学校」にするために、PTA役員を中心に学校と連携を図り、多くの保護者にセーフスクールの取組への理解と参加を促しています。

- (1) 年間を通した朝の集団登校の付き添いと校門での児童を迎えるあいさつ運動
- (2) 自転車安全教室の学校との共催
- (3) 自転車ヘルメット着用率の向上、ヘルメットリサイクル、ヘルメットデコレーション
- (4) 交通安全・防犯ワークショップ
- (5) 夏休みお楽しみ会での防犯教室

指標3 両性、全年齢、環境、状況をカバーする長期的かつ継続的なプログラムを実施している

セーフスクールを目指す長期的かつ継続的なプログラムの全体像です。

児童、教員、保護者・地域の対象別学校内でのプログラム、地域の対象別学校外でのプログラムを、整理したものです。1-1、1-2・・・は対策番号を表しています。

下表は、児童、教員、保護者、地域の活動を学校内と学校外でクロスさせています。

- | | |
|------------------|-------------|
| 1 児童の危険予測回避能力の育成 | 4 交通安全意識の向上 |
| 2 学校の指導体制 | 5 ハイリスク対策 |
| 3 良好な関係づくり | 6 環境改善 |

		全児童			1年生		特別支援学級		教員			保護者		
学校内	校舎内	1-1	1-2	1-3	1-4			5-7	1-2	1-3	1-5	1-3	1-5	
	校舎外 (校庭)	1-5	1-6	1-7	1-8				1-7	1-8	1-12	1-12		
		1-10	1-11	1-12				2-1	2-3	2-4	3-4	3-5		
		1-13	1-15					2-5	2-7	2-8	4-9	4-13		
		2-2	2-4	3-1				3-1	3-4	3-5	4-16			
		3-2	3-3	3-4	3-5				3-6	4-9	4-13	5-1	5-3	5-5
		3-7	3-8	4-9	4-13				4-16	5-1	6-1	6-1	6-2	6-3
		4-16	5-1	5-3	6-1				6-2	6-3				
		6-2	6-3											
		1-1	1-2	1-3	1-4			5-7	1-2	1-3	1-5	1-3	1-5	
		1-5	1-6	1-8	1-10				1-8	2-1	2-3	3-4	3-5	
		1-11	1-13	1-15				2-4	2-5	2-7	4-13			
		2-2	2-4	3-1	3-2				2-8	3-1	3-4	4-16		
		3-3	3-4	3-5	3-7				3-5	3-6	4-13	5-2	5-3	5-5
		3-8	4-13	4-16				4-16	5-2		6-1	6-4		
		5-2	5-3	6-1	6-4				6-1	6-4				
学校外	通学路	1-6	1-8	1-15	4-11	4-12	5-7	1-8	2-3	2-7	1-8	2-9	3-4	
	学区	2-6	2-9		5-6			3-4	3-5	4-13	3-5	4-6	4-7	
		3-1	3-2	3-3	3-4				4-16		4-13	4-15		
		3-5	3-7	3-8	4-6						4-16	5-3		
		4-8	4-10	4-13							5-5			
		4-15	4-16	5-3										
		5-4	5-8											
		1-6	1-8	1-9	1-10	4-11	5-7	1-8	1-9	2-3	1-8	1-9	3-4	
		1-13	1-14	1-15				2-7	3-4	3-5	3-5	4-4	4-5	
		2-6	3-1	3-2	3-3				4-4	4-13	4-7	4-13		
		3-4	3-5	3-7	3-8				4-16		4-14	4-16		
		4-1	4-2	4-3	4-4						5-3	5-5		
		4-8	4-13	4-16										
		5-8												

指標4 ハイリスクのグループや環境を対象としたプログラムを実施している

全校児童対象の首都直下型大規模地震に備えた避難訓練、地球温暖化による暑さ対策、入学したばかりの新1年生の安全な登下校対応、特別支援学級児童の安全な登下校対応や安全な環境づくりのために、以下のようなプログラムを実施している。

1 大規模地震に備えた対応

(1) 校舎の安全対策(5-1)

※5-1、5-3・・等は対策番号です。

1998～1999年に耐震補強工事を行っています。

全教室の窓ガラスには、飛散防止ガラスを入れ、地震の被害を最小限にする処置をしています。

(2) 避難訓練(5-3)

3.11東日本大震災を踏まえ、震度5以上の大地震発生を想定した計画に見直しました。

これにより、災害発生時の基本行動を繰り返し訓練します。

年間実施回数 11回

月日	ねらい	想定	主な内容	避難場所
4/14 9:40	緊急放送を聞く。 避難の仕方を理解する。 避難経路を覚える。	大規模地震発生 余震の可能性	1 緊急ベルの合図を知る。 2 指示を正しく聞く。 3 行動の約束を知る。	校庭
4/30 13:40	児童を保護者に引き渡す。	大規模地震発生	1 保護者へ児童を引き渡す。 2 残留児童を保護する。	校庭
6/10 11:00	消火器訓練を行う。 消火器の使用法を知る。	大規模地震発生 家庭科室火災	1 火災発生。校庭へ避難する。 2 消火器の使用法を見学する。	校庭
7/3 10:25	休憩中の避難の仕方を 知る。	大規模地震発生 図工室火災	1 指示を正しく聞く。 2 「おかしも」の約束を守り避難する。	校庭
9/8 9:05	安全に校庭へ避難する。	大規模地震発生 主事室出火	1 地震発生の通報を聞く。 2 余震を警戒し、校庭に避難する。	校庭
10/8 9:40	二次避難の仕方を知る。	大規模地震発生 地域火災の恐れ	1 校内放送を確認し校庭に避難する。 2 区営グラウンドに二次避難する。	区営グラウンド
11/6 11:00	不審者情報による避難 の仕方を知る。	通用門前に 不審者発見	1 不審者情報の緊急放送を聞く。 2 素早く体育館に避難する。	体育館
12/7 13:30	セイソウチュウの避難 の仕方を知り、安全避難 する。	大規模地震発生 清掃中	1 各清掃場所から、校庭に避難する。 2 班長の指示でグループ行動をする。	校庭
1/25 9:55	不審者侵入による避難 の仕方を知る。	通用門より 不審者侵入	1 不審者情報の緊急放送を聞く。 2 教室での安全確保の仕方を知る。	校庭
2/24 9:40	放送が聞こえないとき の通報の仕方を知る。	大規模地震発生	1 放送なしの避難指示を聞き取り、避難する。 2 素早く安全に校庭へ避難する。	校庭
3/11	1年間のまとめをする。	大規模地震発生	1 突然の通報に対応する。 2 訓練を生かし、避難行動を取る。	校庭

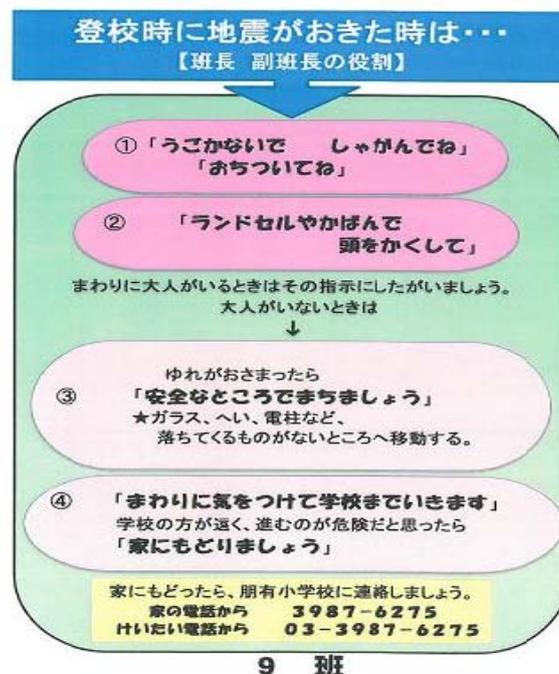
(3) 通学路での大地震避難マニュアル(5-4)

登下校時に地震が起きたとき、児童が判断し行動できるように登下校時の避難マニュアルを作成しました。

全児童に配布するとともに、登校班の班長がランドセルに入れてすぐ取り出せるように携帯させています。

(4) 保護者への周知「大地震に備えて」(5-5)

各家庭にも、今後想定される大地震についての便りを配布し、大地震に備えた対応について理解を求めています。



1 朋有小学校では、**震度 5 弱以上の地震**が発生した場合、原則として児童を学校内で保護し、保護者の皆様の引き取りをお待ちします。

2 警戒宣言が出されたら、速やかに児童を引き取りに来てください。
としま学校安全安心メールを配信します。

* としま学校安全安心メール：携帯電話に加入している全保護者にメールで情報を伝えるシステム

2 暑さ対策とけがの軽減対策としての新校庭(5-2)

2013年に校庭改修工事を行いました。以前の校庭よりも熱吸収効果に優れています。また、鉄棒や固定遊具設置の敷地は、けが軽減の対策として軟らかめにつくられています。

3 新1年生の登下校(4-12/5-6)

新1年生は、他の学年と同様に登校班で登校しています。下校は、入学して1ヶ月間、新1年生児童が自分の通学路を覚え、交通ルールを守って安全に下校することができるよう、帰宅方面ごとに5つのコースに分かれ、教員と交通指導員の付き添いのもと集団で下校しています。

4 特別支援学級（竹の子学級）(5-7)

(1) 登下校

特別支援学級（竹の子）では、道路の横断や自動車等に対する恐怖や不安を取り除き、安心して登下校をすることができるよう、8割の児童が保護者の付き添いのもと登下校をしています。

(2) 教室の配置

地震や火災等の災害があった時、すぐに校庭に避難しやすいように、校庭に面した1階に教室を配置しています。

(3) スタッフの増員

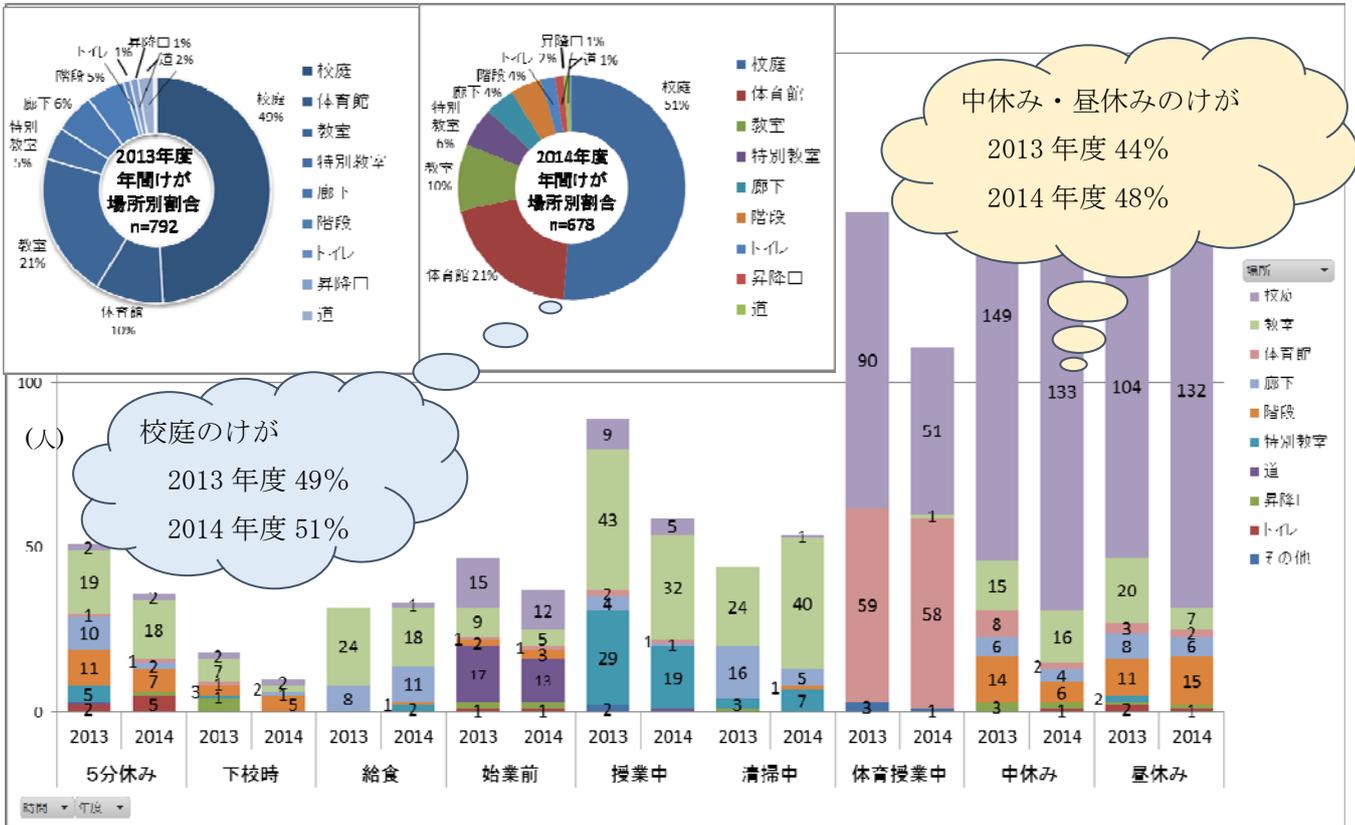
14名の児童に対し、3名の正規教員、その他に特別支援学級指導員1名、教育支援員1名、音楽講師1名と手厚く人員配置をしています。

指標5 全ての取組は根拠に基づいて行われている

1 課題を導く原因分析

【校内：けがの発生状況より】

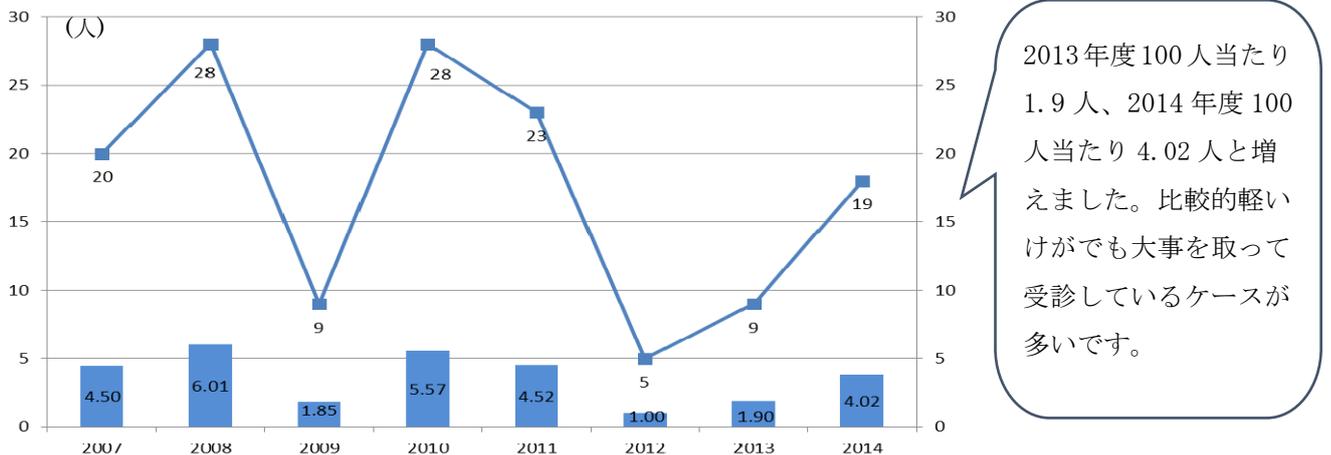
図5-1 けがの発生している時間と場所のクロス集計(2013年度・2014年度保健室データより)



2013年度と2014年度のけがが発生している時間と場所をクロスしてとらえると、2013年度の校庭のけがは49%、2014年度は51%です。

中休み・昼休みの休み時間は2013年度44%、2014年度48%発生しています。全体的に校庭でのけがが多いです。また、このグラフからもわかるように、体育の授業中のけがが多くなっています。

図5-2【再掲】 通院を要するけが(「災害共済給付データ」より)



2014年度 通院を要するけがの例

- ・ 体育の授業中 50m走で転倒。手をついた際、腕を骨折(2年女)
- ・ 中休み、鬼ごっこをして転倒。膝の打撲と挫創(4年男)
- ・ 昼休み、教室に戻るとき、滑って転倒。足首骨折(5年男)
- ・ 中休み、友達と並んで走って接触し転倒。頭部打撲(2年女)
- ・ 昼休み、ボールを拾おうとして転倒。頭部挫創(4年男)

表 5-3 通院を要するけがの発生率

2012年度	1.02%(5/489)
2013年度	1.93%(9/467)
2014年度	4.02%(19/473)

表 5-4 通院を要するけがの時間帯・場所別発生率

	2012	2013	2014	合計
児童数	489	467	473	1429
校舎内	2	7	8	17 (1.19%)
校舎外	3	2	11	16 (1.12%)
授業中	0	2	5	7 (0.49%)
休み時間	5	7	11	23 (1.61%)
給食・清掃	0	0	2	2 (0.14%)
課外	0	0	1	1 (0.07%)

表 5-5 【再掲】 いじめ発生状況

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
いじめ件数	7	3	4	2
解消件数	7	3	4	1
継続指導中	0	0	0	1

心のけが(いじめ)を防止するために、4~6年生は毎月1回、なかよしアンケートを実施しています。
* 2015年度は7月現在

【校外：豊島区内交通事故発生状況と本校自転車ヘルメット着用率】

表 5-6 【再掲】

2015年7月現在				
自転車所持数	ヘルメット所持数	所持率	ヘルメット着用数	着用率
1年	63	110%	57	90%
2年	65	105%	58	89%
3年	66	105%	62	94%
4年	67	91%	45	67%
5年	67	78%	21	31%
6年	83	80%	10	12%
竹の子	10	93%	7	70%
合計	421	93%	260	62%

児童意識調査から、ヘルメットの所持率は9割を超えています。着用率を見ると、高学年児童が低いことがわかります。
*ヘルメット所持率100%を超えているのは、自転車はないが、ヘルメットを持っていることを意味しています。

2 13項目の重点取組

セーフコミュニティにおける学校の安全に関する方針の予防対象として、1つ目に休み時間の校庭のけが・心のけががあります。そして、けがを未然に防ぎ、早期に発見・対応するために予防対象として「校内のけが」があります。課題は「児童の危険予測回避能力の育成」「学校の指導体制」「いじめの防止」です。

予防対象の2つ目は、「自転車における交通事故」です。豊島区の交通事故で一番多いのが自転車による交通事故です。本校では今まで自転車による交通事故はありませんが、しっかりと対策を取り、未然防止に努めています。

課題	予防対象	対策(取組)
1 児童の危険予測回避能力の育成	休み時間の校庭のけが 授業中のけが <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> 2013年度 792件 2014年度 678件 </div>	主体者：児童 (1) 児童による意識調査 (2) 校内パトロールと校内危険箇所マップづくり (3) 児童によるセーフスクール集会
2 学校の指導体制		主体者：教員 (4) 体育の安全指導チェックカードと児童の安全ポイントカードの活用 (5) 教科等における安全指導カリキュラム
3 いじめの防止	心のけが <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> 2013年度 3件 2014年度 4件 </div>	主体者：児童、教員 (6) なかよしアンケート (7) 保健室における心理面サポート (8) 異年齢集団活動 (9) あいさつ運動
4 交通安全意識の向上	自転車における交通事故 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> 【豊島区】 2013年度 14件 2014年度 6件 【朋有小】 2013年度 0件 2014年度 0件 </div>	主体者：児童、教員、保護者、地域 (10) 自転車安全教室 (11) 6年間活用する自転車運転免許証 (12) 自転車ヘルメットキャンペーン (13) 交通安全及び防犯ワークショップ

3 取組内容

3-1 児童の危険予測回避能力の育成

(1) 児童による児童意識調査

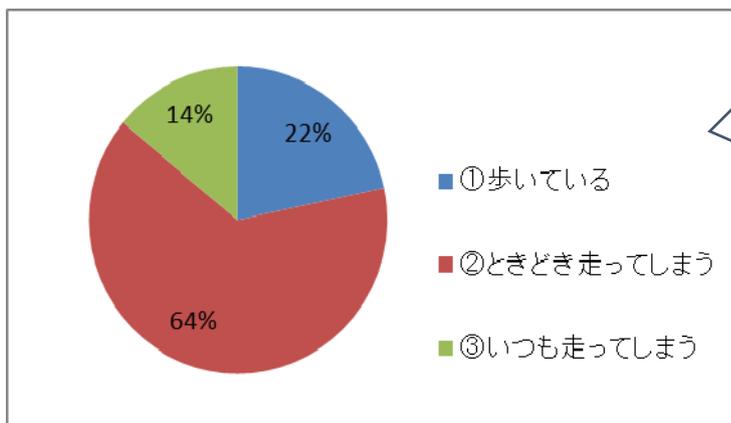
セーフスクール委員会が、学期1回、全校児童対象に「子どもアンケート」を実施します。調査結果は、児童が集計し、全校朝会やISS集会、児童発行の「セーフニュース」に掲載します。

<子どもアンケート調査項目>

- 教室や廊下、階段の歩き方はどうですか。
- 校庭で遊んでいるときは、どうですか。
- 教室の中であぶないと感じたことがありますか。それは、どんなことですか。
- そうじ中、あぶないと感じたことがありますか。それは、どんなことですか。
- 友達と過ごしているとき、いやだなあと感じたことがありますか。それはどんなことですか。

図 5-3 児童の意識(子どもアンケート 2015年6月 n=463)

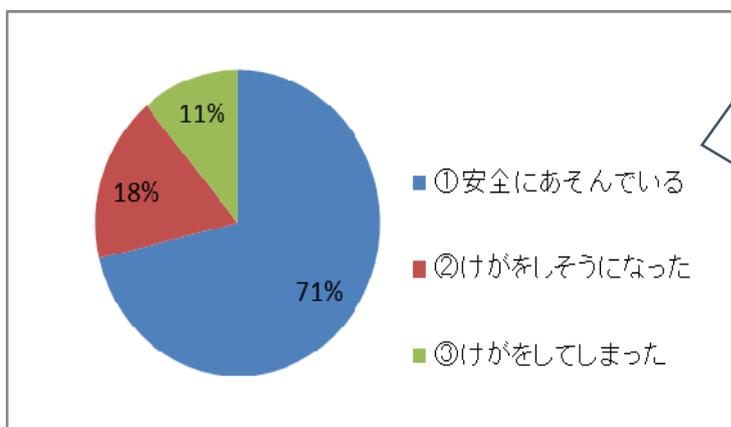
Q: 教室や廊下、階段の歩き方はどうですか?



【児童の考察】

廊下、階段を走っている人だけではなく、一段抜かしや二段抜かしをしている人もいます。校庭の場所取りのために走っているのだと思います。

Q: 校庭でけがをしまったり、けがをしそうになったことはありますか?



【児童の考察】

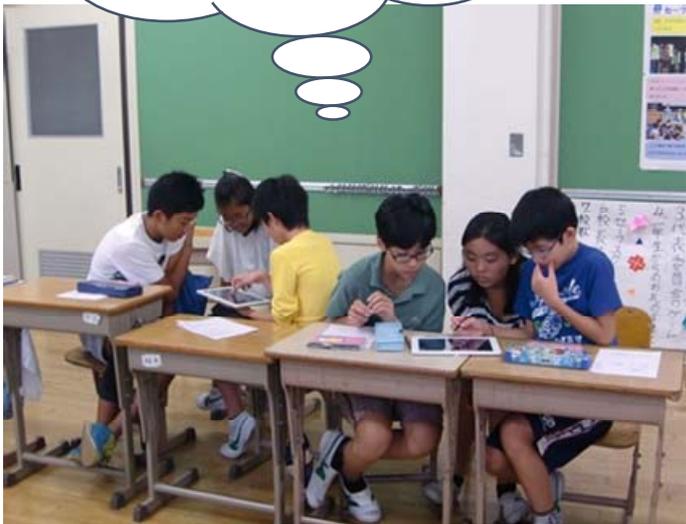
鬼ごっこに夢中になっていると周りが見えなくなり、別の遊びをしている人にぶつかってしまうことがあります。高学年は、周りをよく見て低学年が視界に入るように気を付けて遊ぶことが大切です。

この結果を受けて、ISS集会でセーフスクール委員会が全校に報告し、各学級で改善のための取組を行います。

(2) 校内パトロールと校内危険箇所マップ作り

セーフスクール委員会では、校内パトロールを行っています。タブレットPCを使って、自分たちが危険だと思うところの写真を撮ります。写真を見て相談しながら「校内危険箇所マップ」を作成し、セーフロードに掲示します。すぐに改善できることは、全校に呼びかけ、改善が難しい施設については校長に要望し、安全対策に取り組んでいます。

施設面で改善が難しい所は、みんなに気をつけてもらえるように呼びかけよう。



雨の後は水たまりになっているね。ぬれていると滑って転ぶ危険があるよ。



校内パトロールと校内危険箇所マップ作り

黄色い画用紙には、すぐにでも直せることが書いてあるよ！もし見つけたら直そうね！

ピンクの画用紙には、学校の中の、見つけた方がいい場所がのっているよ！こういう場所はいつも気をつけようね！

【子どもの目で見えた危険箇所】
 大イチョウの木とケヤキの木の周り、ゴミ捨て場 玄関床 理科室前消火栓 図工室前曲がり角
 階段踊り場 階段手すり 教室机の下 配ぜん台 3階水飲み場 廊下の柱 雑巾置き場
 4階水飲み場



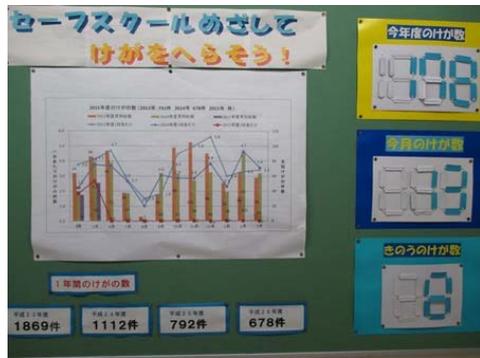
大イチョウの木とケヤキの木の周りは、校長に改善を要望し、鉄製の泥除けの上にマットを敷いています。

(3) 児童によるセーフスクール集会（ISS 集会）

セーフスクール委員会が中心となって児童集会を開き、保健室前に掲示してある「けがのひやりマップ」やけがの発生数、危険箇所の調査結果を発表しています。これを受け、各学級でけがの予防について話し合います。保護者・地域の方も参加し、地域の交通安全、防犯について話をします。



けがをした児童がひやりマップにシールをはり、けがをした場所の見える化を図っています。



けがの数の推移を保健室前に掲示し、保健委員会の児童がけがボードの数を表示しています。



セーフスクール委員会が行っている子どもアンケートの結果について劇やグラフで伝えたり、校内危険箇所マップ作りなどの取り組みについて発表したりしました。



PTA や地域の方々の協力のもと作成した「子どもの安全点検マップ」を見て、各学級で話し合ったことを発表したり、特に気をつけてほしい場所についてPTA から動画を使って呼びかけたりしました。

3-2 学校の指導体制

(4) 体育の安全指導チェックカードと児童の安全ポイントカードの活用

2013年度は校庭改修があり、7月から10月までは校庭で体育をすることができませんでした。しかし、2013年の授業中のけがの発生件数において体育の授業中のけがが多いことがわかりました。そこで、2014年度は体育のけがの件数を減らすために、教員は安全指導チェックカードを、児童は、安全ポイントカードを活用しました。

【ハードル走：安全指導チェックカード】

[授業前確認]

・ハードルに壊れているところはないか、バーは固定されているか	
・体育倉庫からハードルが出しやすいところに置かれているか	
・インターバルごとのハードルを置く場所に目印があるか	

[準備・運動中]

・2人で台車から出し、運ぶ人に渡しているか	
・ハードルは1台ずつ、片手で運んでいるか	
・インターバルの距離を確認し、ハードルが倒れる向きに置いているか	
・バーを上げるときは2人で手を挟まないように同時にあげて、固定しているか	
・ハードルがコース上にまっすぐ並んでいるか	

[後片付け]

・バーを下げるときは2人で手を挟まないように同時にさげ、固定しているか	
・ハードルは1台ずつ、片手で運んでいるか	
・しまうときは向きを確認し、2人で受け取って台車に置いているか	

[授業後確認]

・ハードルに壊れているところはないか	
・体育倉庫からハードルが出しやすいところに置かれているか	

○・・・確認した

【ハードル走：安全ポイントカード】

[準備]

・ハードルに壊れているところはないか、バーは固定されているかを確認する。	
・2人で台車から出し、運ぶ人に渡す。	
・ハードルは1台ずつ、片手で運ぶ。	
・インターバルの距離を確認し、ハードルが倒れる向きにおく。	
・バーを上げるときは2人で手を挟まないように同時にあげて、固定する。	
・ハードルがコース上にまっすぐ並んでいるかを確認する。	

[運動中]

・ 遠い位置から踏み切るようにする。	
・ 振り上げ足の足裏が、前の人に見えるように足を振り上げる。	
・ 抜き足は、足を横にしてすばやく抜くようにする。	

[後片付け]

・ 壊れているところはないかを確認する。	
・ バーを下げるときは2人で手を挟まないように同時にさげ、固定する。	
・ ハードルは1台ずつ、片手で運ぶ。	
・ しまうときは向きを確認し、2人で受け取って台車に置く。	

○・・・できた ×・・・できなかった

(5) 教科等における安全指導カリキュラム

体育授業中以外の教科授業中のけがや事故が発生しており、全教科・領域を網羅した安全学習カリキュラムを作成しています。児童は教科ごとの安全ポイントカードを活用します。

○ビーカーの扱い方

・ ぬれた手でビーカーを持たない。 (滑り落とす危険があるため)	
・ 液体をかき混ぜるとき、ガラス棒をビーカーの側面にぶついたり、底をたたいたりしない。(ビーカーが割れる危険があるため。)	
・ 冷えるまで直接ビーカーにさわらないように注意する。 (熱したビーカーにさわると火傷をする危険があるため。)	

○試験管の扱い方

・ 試験管は必ず試験管立てに立てる。 (転がり落ちる危険があるため)	
・ 試験管を手で握るときは、力を入れ過ぎないように注意する。 (割れる危険があるため)	
・ ぬれた手で試験管を持たない。 (すべり落とす危険があるため)	
・ 試験管に液体を入れ過ぎない。 (反応が激しいとあふれ出すことがあるため)	
・ ぬれたままの試験管は使わない。 (熱すると割れることがあるため)	
・ 熱したり、反応させたりするときに、試験管の口を人の方に向けない。 (中の液体がかかる危険があるため)	
・ 試験管を洗うときに柄を長く持たない。 (底を突き破る危険があるため)	
・ 試験管の底は、ブラシを回すようにして洗う。 (上下にこすると割れる危険があるため)	

○メスシリンダーの扱い方

・ メスシリンダーは重心が高いため、倒さないように置く場所に注意する。 (倒れて割れる危険があるため。)	
・ 使わないときは、トレーの中に寝かせて置いておく。 (転がり落ちる危険があるため。)	

<家庭科安全チェックリスト～被服編～>

○縫物

・使う針を針山にさし、数を数える。	
・針を引くときは、針先を持ち、内側に倒して引く。	
・布をたつときは、はさみの刃先を机の面に当てて、布をたつ。	

○アイロン

準備・片付け

・アイロンを水平な場所に置き、コンセントにプラグを差し込み使用する。	
・布の種類に合わせて温度を調節する。	
・完全にさめてから片付ける。	
・ぬれた手でプラグに触らない。	

使用中

・手をアイロンの進行方向へは置かない。	
・使用中はその場を離れない。	
・使わない時は立てておく。	

○ミシン

準備・片付け

・ミシンを運ぶときは、金具が閉まっているのを確認して、下をしっかり持つ。	
・差し込みプラグは、しっかり持って抜き差しする。	

使用中

・ミシンでぬっている人の体や、使用中のミシンにさわらないようにする。	
・針から目をはなさないようにする。	
・体がミシンの針棒の正面になるように座る。	
・コントローラーは急に強くふまない。	
・ぬうとき以外はコントローラーに足をのせない。	

○…できた ×…できなかった

3-3 良好な関係づくり

(6) いじめ実態調査「なかよしアンケート」に基づく対応

毎月 20 日、4 年生以上の児童を対象に、いじめの被害がないかについて調査をしています。

生活指導主任が集計し、いじめの疑い、いじめがあった場合は、学級担任と生活指導主任が事実関係を確認し、即時に指導を行います。その過程で深刻ないじめと判断した場合は、「いじめ緊急対策委員会」を開催し、組織的な対応を行います。

毎学期ごとに集計・対応したデータを、東京都並びに豊島区教育委員会に報告します。

表 5-7 いじめの状況 (2015 年 4 から 7 月まで なかよしアンケートより抜粋)

	学年	被害者	被害者	通報	状況	対応
1	4 年	A さん	男子数名	C さん	悪口、被害者児童の隣に座らない	指導後、解決
2	4 年	B さん	D さん	本人	仲間はずれ、悪口	指導後、経過観察中

(7) 保健室における心理面でのサポート

個別の児童について、保健室に来室した回数を集計したデータを作成しています。回数の多い児童については、状況を把握し、養護教諭、担任、カウンセラー、生活指導主任等で連携を図り、心理面からもサポートをしています。

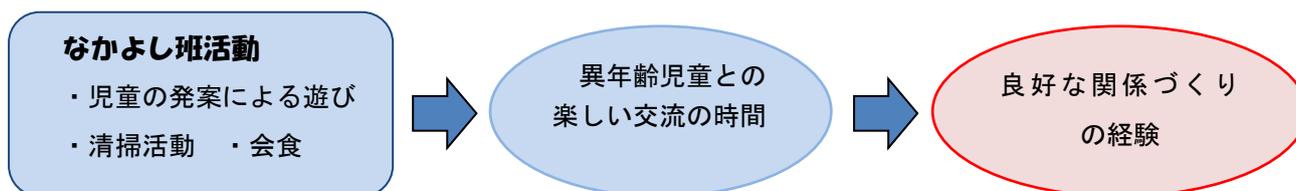


表 5-8 児童別保健室利用状況 (2014 保健室来室者記録抜粋)

学級	名	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
1-3	A 男	1	10	6	5	2	10	10	12	13	8	13	7	97
3-2	B 女	2	4	3	2	0	1	0	2	2	1	2	5	24
6-1	C 女	4	4	2	4	1	2	5	2	3	2	7	2	38

(8) 異年齢集団活動「なかよし班活動」

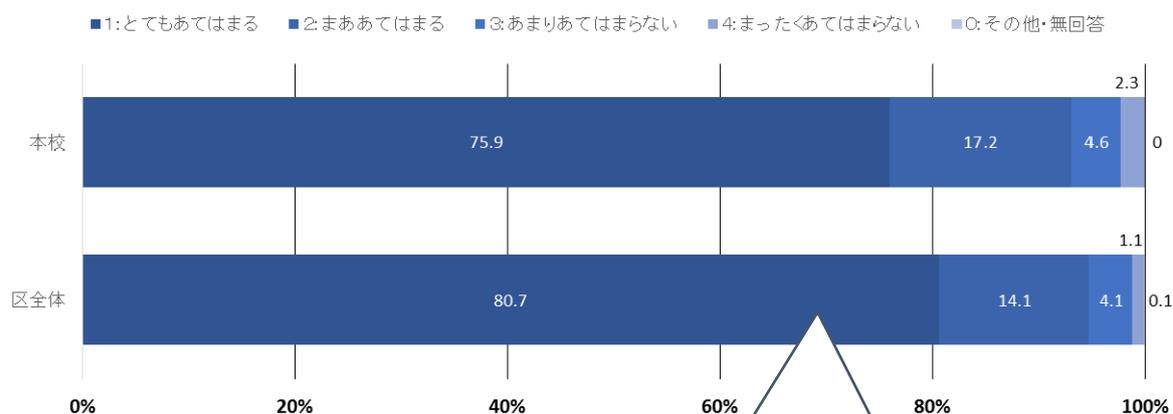
全校児童（1～6 年生）による異年齢集団を 18 グループ作り、毎月 1 回遊びの活動時間を設定しています。班長を中心に、6 年生全員で下学年も楽しめる遊びなどを工夫し、計画的に実施します。



なかよし班活動は、6 年生が企画運営しグループの児童全員が良好な関係を築けるようにします。そうすることで、いじめに対する意識が高まると考えています。

図 5-6 いじめに対する 6 年生の意識の変容（基礎的・基本的な内容の定着に関する調査一意識調査 2015. 4）

「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」（ n=87 ）



いじめはいけないと強く思う 6 年児童は、区平均よりも 4.8%低くなっています。

(9) あいさつ運動

セーフスクール委員と代表委員が 2014 年度から継続して、保護者と一緒に「FOR YOU 朋有」の腕章を付けてあいさつ運動を行っています。あいさつは「心を開き、相手を受け入れる」友好な人間関係を築き、いじめ防止につながります。また児童一人一人の表情から、児童理解を図ることもできます。2015 年度からは登校班の班長も腕章を付けて登校しています。登校班の付き添い、あいさつ運動に参加してくれる保護者が年々増えています。



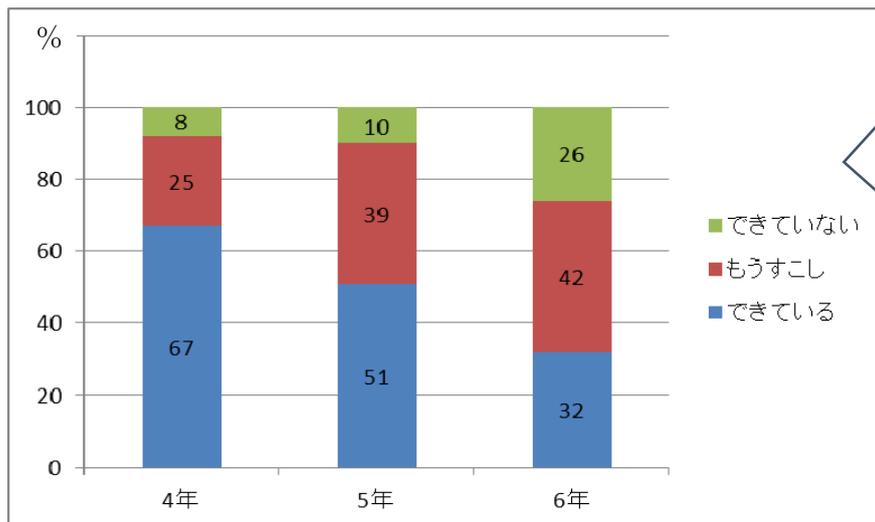
3-4 交通安全意識の向上

(10) 学校、保護者、地域の協力による自転車安全教室

全校児童の約 89.4%が専用の自転車を所有しています。低学年児童も、すでに 84.2%が、自転車を所有しています。そこで、教育課程に位置づけ、警察署、交通安全協会、PTA 役員、保護者・地域の協力による全校児童対象の自転車安全教室を開催しています。2・4・6 年児童は、自転車の乗り方の実技講習を、1・3・5 年児童は交通安全ルールを学びます。

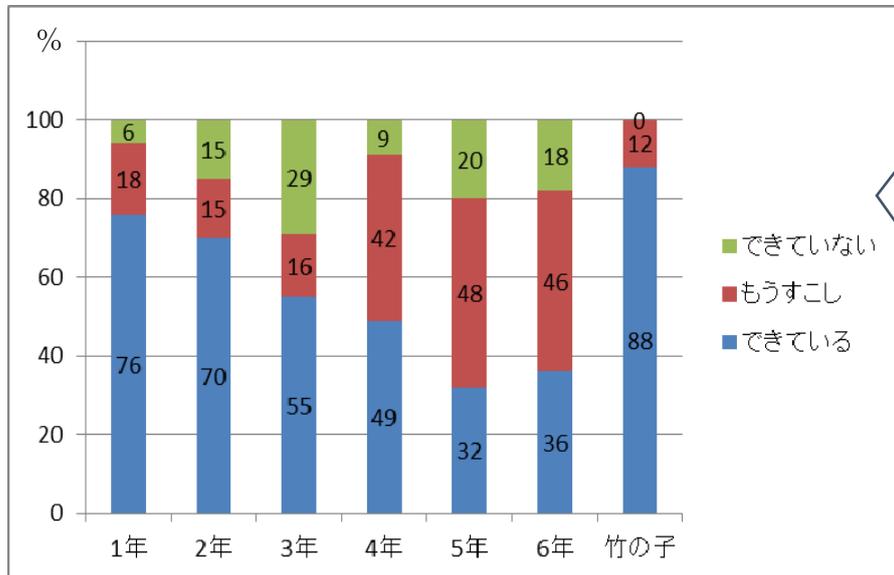


図 5-7 自転車に乗る時に標識のきまりを守ることができていますか。(2014 年度アンケート：4 年・5 年・6 年)



学年が上がるにつれて、交通ルールへの意識が下がっていることが分かります。道交法改正に伴い、更に交通安全意識をもたせていきます。

図 5-8 交差点では一度とまり、左右の安全を確認してからわたっていますか。(2014 年度アンケート：全校児童)



自転車安全教室で正しい自転車の乗り方、乗車時の動作確認など、警察の方から指導していただいています。学年が上がるにつれて「できている」児童が減っています。

(11) 6年間活用する「自転車運転免許証」

自転車安全教室を受講した児童には、自転車運転免許証を発行します。この免許証は、地域の交通安全協会の方が作成しています。当日欠席した児童も後日補習を受け、児童全員が免許証を持てるようにします。

毎年、自転車安全教室を受講するたびに、更新の手続きとして免許証の裏にシールを貼り、小学校での6年間使用できるものにしていきます。免許証は自転車に乗車するときには持参するように指導しています。



裏面に書かれている内容

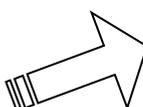
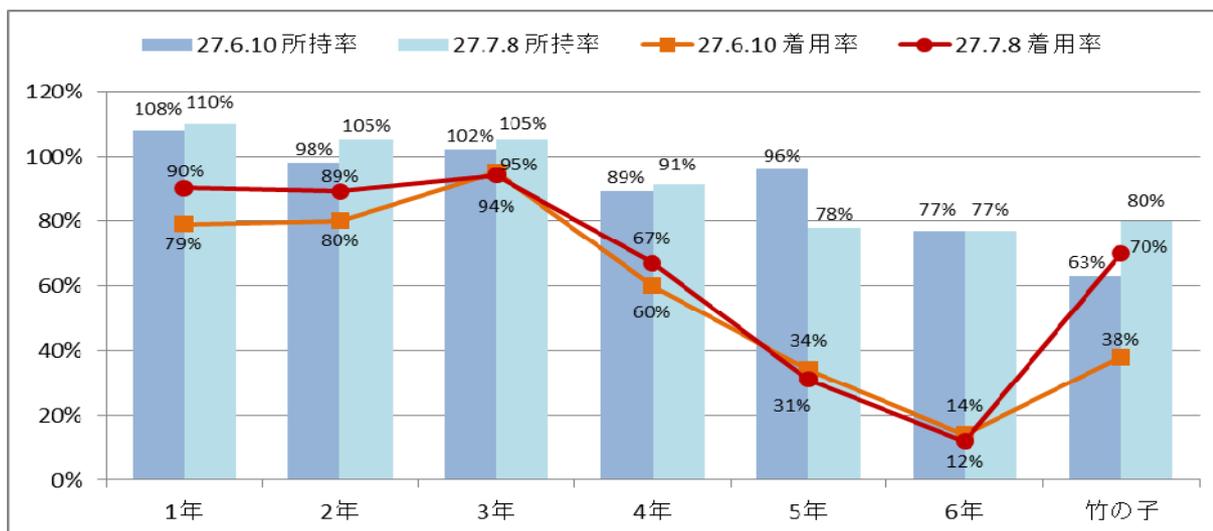
- <自転車に乗るときの約束>
- ・免許証を身に付けて自転車に乗る
- ・ヘルメットをかぶる
- ・自転車の点検をする
- ・交通ルールを守る

(12) 自転車ヘルメット着用キャンペーン

児童意識調査から、全体的に高学年児童のヘルメット着用率が低いことが分かりました。そこで、セーフスクール委員会が「めざせ！全員 ヘルメット！」をスローガンに、ISS 集会で呼びかけたり、ヘルメットデコレーションをしたり、自転車ヘルメット着用キャンペーンを行っています。2015年7月18日の夏休み親子お楽しみ会で、PTAによるヘルメットキャンペーンを行いました。PTA会長から保護者に、6月の道路交通法改正に伴う自転車の取り締まり強化を周知し、アンケートに協力してもらいました。児童にはその場で説明し、簡単な聞き取りを行いました。



図5-9 自転車ヘルメット所持率と着用率 (ヘルメット着用調査 2015年度6月・7月)



児童玄関にヘルメットキャンペーンボード「めざせ全員ヘルメット」を掲示しています。全校児童、保護者、地域の方々が一目で分かるように見える化を図っています。自転車乗車時は必ずヘルメットを着用している児童の数だけシールを貼ります。2015年7月の調査では62%に達しました。

(13) 交通安全及び防犯ワークショップ（子どもの安全点検マップの作成）

2012年度に多くの保護者の参加を得て「通学路点検」を実施し、約100名の保護者から報告をもらいました。それ以降、改善を図り2014年度に保護者を中心に町会長や民生児童委員の方々と一緒になって交通安全と新たに防犯を加えた「子どもの安全点検マップ」を作成しました。



2014年7月、8月に「地域の安全点検～子どもにとって危険と思われる場所アンケート～」を実施しました。保護者が127件、区民ひろば朋有が70件、町会が14件、合計しますと211件もの回答を頂きました。そのアンケートから交通安全や防犯など、443もの情報が寄せられました。その中には、「春日通りの歩道は学生や歩行者、自転車が多い。大塚台公園は見通しが悪く死角が多い。」などがありました。そして、これらのアンケートをもとに、10月にワークショップを開催しました。

11月までに各グループであげられた危険箇所の定点観測を行いました。その結果を踏まえて、子どもの安全点検マップを作成し、2015年2月7日のISS集会で発表しました。



指標6 外傷の発生頻度や原因などを記録するプログラムがある

1 校内におけるけがの記録

以下の方法で、けがの発生状況や原因を記録しています。

1	校内におけるけがの記録	(1) 軽微なものを含むけが (保健室データ)	保健室において、「けがのきろく」シートを使い、けがや事故の情報収集をし、統計処理をしています。	週ごと分析
		(2) 通院を要するけが (災害共済給付データ)	学校管理下における児童の災害医療費請求のため、日本スポーツ振興センターへ提出する記録を区に提出しています。	年1回分析
2	いじめ実態調査 (なかよしアンケート)	(3) いじめの発生件数	全児童を対象に、児童自身がいじめと感ずることや友だちがいじめの被害にあっていないか調べています。	毎月分析

(1) 軽微なものを含むけが（保健室データ）の収集

「けがのきろく」シートを使って「いつ」「どこで」「どこを」「どうして」「けがの種類」「手当て」の項目に加え、「なにをしていて」「どうしたらそのけがをしなかったか」を個別に記録します。

けがの状況を記録するとともに、けがの予防についても考えさせます。

(No.) **けがのきろく**

月 日 () ほけん室にきた時間 : 担任サイン

年 組 名まえ

*あてはまるものに○をつけましょう。() があるところは書きましょう。

1. いつ

①あさ ②中休み
③() 時間目の()
④5分休み ⑤昼休み
⑥きゅう食 ⑦そうじ
⑧かえり
⑨そのほか()

3. なにをしていて

①ころんだ
②() にぶつかった
③() できった
④そのほか()

7. けがのしゅるい

①すりきず・ざしやう ②だぼく
③きりきず・さしきず ④いたみ
⑤ねんざ・つきゆび
⑥やけど ⑦目のけが ⑧歯のけが
⑨はなち ⑩ひふ()
⑪そのほか()

*書けたらひやりマップにシールをはりましょう。

2. どこで

①校でい ②きょうしつ
③たいいくかん ④ろうか
⑤かいだん ⑥トイレ
⑦しょうこうぐち
⑧そのほか()

4. どこを (右・左)

①頭
②かお()
③うで ④ひじ
⑤手 ⑥ゆび()
⑦もも ⑧ひざ ⑨すね
⑩足()
⑪そのほか()

6. どうしたらそのけがをしなかったか、かんがえてかきましょ

8. てあて

①しょうどく ②ばんそうこう
③ひやす ④しつぶ
⑤ぬりぐすり()
⑥そのほか()



保健室利用の流れ

けがをし、保健室に来る



「けがのきろく」シートに原因を考え記入する。

6 どうしたらけがをしなかったか考えて書きましょ



★「ひやりマップ」にシールを貼る



「けがのきろく」シートを担当が確認する



養護教諭に戻す

表 6-1 週ごとのけがの発生記録(抜粋)

2015年 6/1～6/5					総数 17件	累計 103件(～4月)
No.	月 日	学年男女	種類	時間	場所	原因
1	6月1日	5年男	擦過傷・挫傷	体育授業中	校庭	足につまずいて
2	6月1日	1年男	打撲	中休み	校庭	人とぶつかって
3	6月1日	6年男	やけど	授業中	特別教室	調理実習で熱いフライパンに触った
4	6月1日	1年男	擦過傷・挫傷	5分休み	校庭	ゆめのくに行くとときに転んだ
5	6月1日	1年男	擦過傷・挫傷	昼休み	校庭	高鬼でつまずいて転んだ
6	6月2日	4年男	打撲	中休み	校庭	リレーで人とぶつかって転んだ
7	6月2日	2年男	打撲	中休み	校庭	ドッジボールで人とぶつかった
8	6月4日	4年女	擦過傷・挫傷	体育授業中	校庭	ボールを取りに行こうとして転んだ
9	6月4日	6年男	擦過傷・挫傷	給食	特別教室	食べているときに噛んだ
10	6月4日	6年男	擦過傷・挫傷	給食	特別教室	立っていたら友達の手が当たった
11	6月4日	1年男	打撲	昼休み	校庭	高鬼で友達とぶつかった
12	6月4日	1年女	擦過傷・挫傷	昼休み	校庭	鬼ごっこで転んだ
13	6月5日	5年男	擦過傷・挫傷	授業中	教室	友達がいすを引いていすにすった
14	6月5日	6年男	切傷・刺傷	5分休み	体育館	ポケットに入れていた鉛筆が刺さった
15	6月5日	5年男	打撲	昼休み	校庭	サッカーで友達の足が当たった
16	6月5日	2年女	打撲	給食	廊下	ワゴンを運んでいてぶつかった
17	6月5日	4年男	打撲	体育授業中	体育館	追いかけてっこをしていた友達とぶつかった

(2) 通院を要するけがの記録収集(「災害共済給付データ」より)

学校管理下のけがや事故で、病院にかかったけがについて記録します。サーベイランス票によって、下記の情報を収集しています。

表 6-2 外傷サーベイランス記録抜粋(2014)

	被災者	時間	場所	場合	恣意性	他者関与	受傷機転	傷病名	受診結果
1	2年女	10:15	校庭	体育授業	無	単独	転倒	骨折・腕	通院
2	5年男	13:20	廊下	昼休み	無	単独	転倒	骨折・足首	通院
3	4年男	10:30	校庭	中休み	無	単独	転倒	打撲・膝	治療完了
4	6年女	16:00	校庭	下校時	無	他児童	衝突	挫創・頭	通院
5	2年女	10:30	校庭	中休み	無	単独	転倒	打撲・頭	治療完了
6	4年男	13:15	校庭	昼休み	無	単独	衝突	挫創・頭	通院
7	1年女	14:30	階段	下校時	無	単独	衝突	捻挫・足首	通院
8	2年男	13:10	校庭	昼休み	無	単独	衝突	捻挫・足指	通院

表 6-3 通院を要するけがの記録様式

記録項目	①受傷者の属性（性別・学年・年齢）	②いつ	③どこで
	④何をしているとき	⑤恣意性	⑥他者関与
	⑧傷病名	⑨傷病部位	⑩受診結果

「学校管理下における外傷サーベイランス（小中高用）」票

<表面>

被災者	①性別 1男 2女 ②学年 年 ③年齢 歳（生年月日 平成 年 月 日）
時間	①平成 年 月 日 ② 曜日 ③午前・午後 時 分
場所	学校内 校舎内：1教室 2実験実習室 3体育館・屋内運動場 4講堂 5廊下 6昇降口 7階段 8その他 校舎外：9運動場 10体育・遊戯施設 11プール 12排水溝 13その他 学校外 14道路 15運動場 16山 17林野 18海 19湖 20河川 21その他
場合	<u>教育課程に基づく授業を受けている場合</u> 各教科（科目）、道徳、自立活動、総合的な学習の時間：1体育（保健体育） 2その他の教科等 特別活動：3学級（ホームルーム）活動 4児童会活動 5クラブ活動 6儀式的行事 7学芸的行事 8健康安全・体育的行事 9遠足（旅行）・集団宿泊的行事 10勤労生産・奉仕的行事 11その他 <u>学校の教育計画に基づいて行われる課外指導を受けている場合</u> 12部活動 13林間学校 14臨海学校 15水泳指導 16生徒指導 17進路指導 18その他 19休憩時間中 20屋食時休憩時間中 21始業前の特定時間中 22授業終了後の特定時間中 23その他 <u>通常の経路方法により通学する場合及びこれに準ずる場合</u> 24登校中 25下校中 26その他 (登校手段：1徒歩 2バス 3鉄道 4自転車 5原動機付自転車 6自動二輪車 7その他)
恣意性	1不慮の事故 2自傷 3暴力・けんか 4その他() 5不明
他者関与	1単独の事故 2他の児童・生徒が関与 3教職員が関与 4その他() 5不明
受傷機転	1交通事故 相手：1自動車 2自動二輪車 3自転車 4歩行者 5その他 本人：1自動車 2自動二輪車 3自転車 4歩行者 5その他 2衝突 相手：1人 2モノ /自分から衝突 1はい 2いいえ 3圧迫（はさまれた。踏まれた） 何に：1人 2モノ 4転倒（ころんだ、つまづいた） 5転落 高さ： mから/どこから 6ひっかいた・ひっかかれた 7切れた・裂けた 何で 8刺した・刺された 何で 9かんだ・かまれた 10やけど 何で 11おぼれた・おぼれかけた 12中毒 何で 13その他 14不明

傷病名	該当部位
1 骨折	
2 捻挫	
3 脱臼	
4 挫傷・打撲	
5 靭帯損傷・断裂	
6 挫創	
7 切創	
8 刺創	
9 割創	
10 裂創	
11 擦過傷	
12 熱傷・火傷	
13 歯牙破折	
14 中毒	
15 溺水	
16 誤飲	
17 その他	

部位
該当番号
を記入

傷病部位		
全身	体幹	四肢
0 部位	7 胸部（胸郭）	<u>上肢</u>
	8 腹部	11 肩・上腕
頭部・頸部	9 骨盤・尿生殖器	12 肘・前腕
1 脳損傷	10 背部・臀部	13 手首・手・指
<u>脳損傷以外</u>		<u>下肢</u>
2 頭部		14 股関節
3 顔面		15 大腿
4 眼		16 膝
5 歯		17 下腿・足関節
6 頸部		18 足・足指
その他 ()		

受診結果	1 治療不要	2 即日治療完了	3 要通院	4 要入院	5 その他 ()
------	--------	----------	-------	-------	-----------

(3) いじめ実態の把握

4年生以上の全児童に、下記の用紙を配布して、一か月ごとにいじめの実態を調査しています。

1から3年生は、教員が聞き取ります。

表 6-4 「なかよしアンケート」記入用紙

☆なかよしアンケート

朋有小学校は、いじめのない、明るく楽しい安心して過ごせる学校をめざしています。

このアンケートは、みなさんが安心して楽しく生活できるようにするためのものです。

いじめは、人間として絶対に許されないことです。

学校はいじめを絶対許しません。

みんなの力でいじめを許さない集団づくりを進めるため、このアンケートに教えてください。

ここでいう「いじめ」とは、

- ① 自分よりも強そうな人から、または大勢の人から、一方的にいやなことをされたり、仲間はずれにされたりしている。(いいかえすことなどがこわくてできない。助けてくれる人がいない。)
- ② ぶつたり、けつたり、悪口をいわれたり、いやがらせをされたりすることが続いている。
- ③ パソコンや携帯電話(スマートフォン)を使って、悪口や嫌なことをされている。

などの場合を指します。

一つでも「あてはまるかな」と思うことがある人は、アンケートに「いじめられている」「いじめられているのを見た」と書きましょう。

(月 日から 月 日までのことについて答えましょう)

<あなた自身のことについて聞きます?>

1 今、いじめられていますか。

1 はい



2~4に進みましょう。

2 いいえ



5に進みましょう。

2 どんなことで困っていますか。

3 それは、いつごろからですか。

ころから

4 それは、だれからですか。

<友だちについて聞きます>

5 最近、いじめられている人を見かけましたか。

1 見かけた

2 見かけない



6~9に進みましょう。

アンケートは終わりです。名前を書いて提出してください

6 いじめられている人、いじている人はだれですか。

いじめられている人

いじている人

7 どのようなことをされてきましたか。

--

8 それは、いつごろですか。

--

ころから

9 見かけた時に、あなたはどうしましたか。

--

アンケートは以上で終わりです。

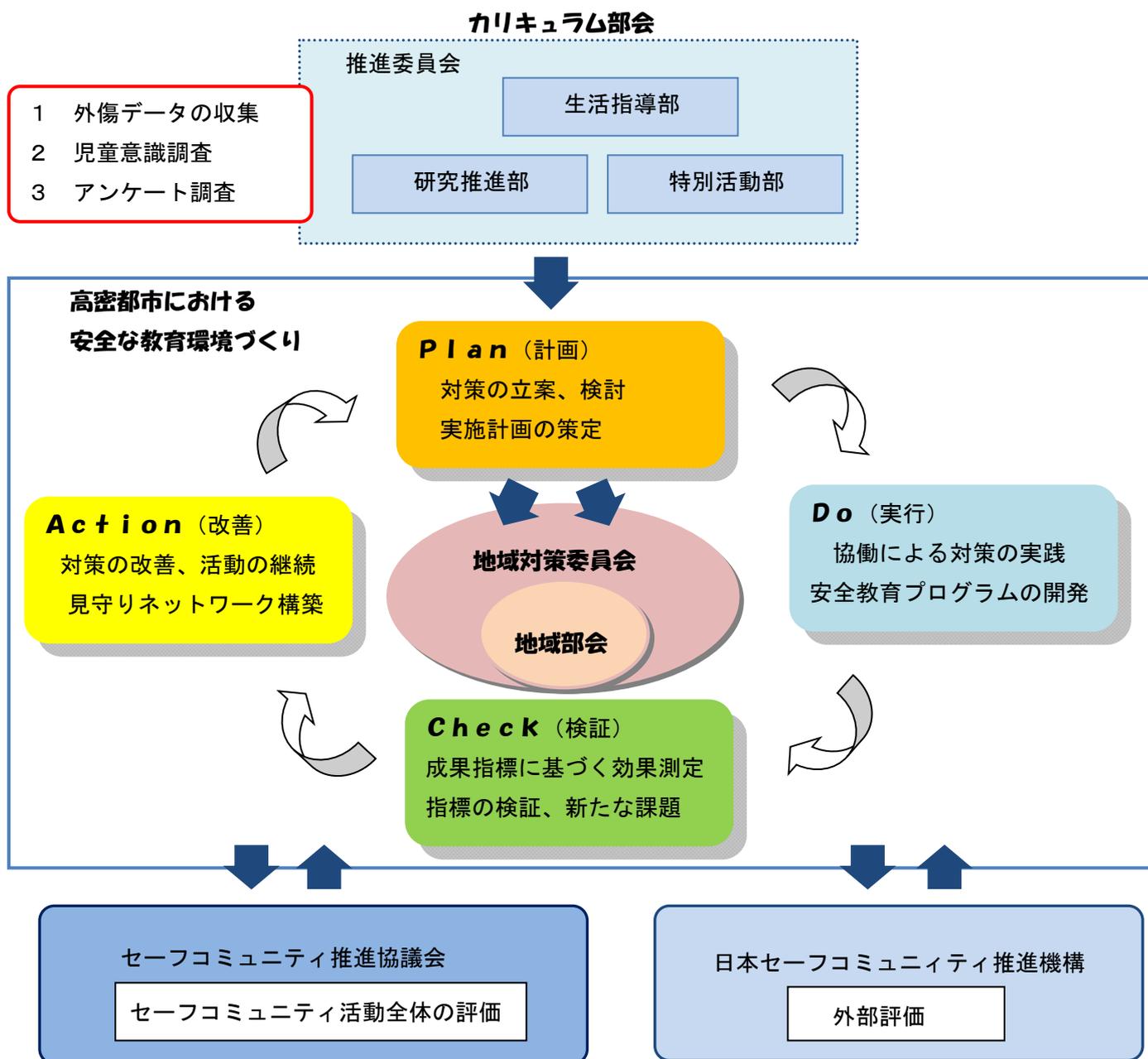
年 組

名前

指標7 学校政策、プログラム及びそのプロセスが変化したことによる効果を評価する方法がある

1 プログラムの進行管理

カリキュラム部会のデータ収集、対策の立案を受け、プログラム全体の進行管理を地域対策委員会が行います。成果指標に基づいて、効果を評価し改善します。



2015年6月にアジア認証センターによる現地事前審査を受けました。



2 重点課題における成果指標の状況

割合や件数がどうなると良いかを表しています。

		2012年度	2013年度	2014年度	
短 中 期	① けがの発生と要因の理解度 (2014年度から改善・変更) * 年1回：全児童によるアンケート調査	高める	97.5%	自己評価 97.5% 他者評価 25%	
	2014年度より評価方法を変えました。自己評価と他者評価を行うことで、数値の信ぴょう性が高まると考えたからです。				
	② 予防への意識・行動 * 学期1回：児童による児童意識調査	減らす	82%	83%	75%
	セーフスクール委員会の校内安全パトロールや声かけ、子どもアンケートの継続的な実施により、自分の行動を振りかえる習慣が身に付き、意識して生活する児童が増えています。				
	③ 安全に関する意識と定着 (2013年度実施、2014年度から改善・変更) * 年度末：体育の授業中のけがデータ	減らす		152件	111件
2013年度に体育の授業中のけがの件数が多いことから、体育のけがの件数を評価しました。2014年度は、安全チェックリストの活用などにより、体育のけがが減少したと考察します。					
④ いじめの発生件数 * 月1回：なかよしアンケート	減らす	7件 [疑い] 67件	3件 [疑い] 21件	4件 [疑い] 12件	
日頃から児童の看取り、月1回のなかよしアンケート、学期はじめに行ういじめに関する授業など、いじめ防止に努めています。					
⑤ 自転車ヘルメット着用率 * 月1回：全児童によるアンケート調査	高める	44.1%	51%	50%	
2013年度 51%、2014年度 50%と横ばい状況にあります。2015年度7月現在は昨年度のデコレーションヘルメット授業の効果もあり 62%です。今後も、自転車安全教室や安全指導、児童によるヘルメットキャンペーン等でヘルメットの必要性を指導します。					

短 中 期	⑥ 交通ルールの定着度 (2014年度から改善・変更) * 年1回：全児童によるアンケート調査	高める	53.2%	41.7%	
	交通ルールの定着度は、毎年3学期に調査しています。安全指導を通じて交通ルールが定着するようにしています。経年で児童の変容が見られるようにするために2014年度から対象を5年生に変更しました。				
長 期	⑦ 保護者等の交通安全意識 (2014年度から改善・変更) * 年1回：保護者による学校評価	高める	60.2%	76%	
	保護者等の交通安全意識は、1年ごとに通学路や地域の安全について、保護者のワークショップ等の参加率で評価していましたが、すべての保護者に評価していただくとう2014年度から、学校評価で保護者の安全意識を調査することにしました。				
長 期	① けがの発生件数・発生率 (軽微なものを含む) * 年度末：全児童の保健室データ	下げる	1115件 232件/100人	792件 168件/100人	678件 143件/100人
	2013年度100人当たり168件、2014年度100人当たり143件と、さらに減少することができました。				
	通院を要するけがの 発生件数・発生率 * 年度末：全児童の災害共済給付データ	下げる	5件 1.0件/100人	9件 1.9件/100人	19件 4.0件/100人
2013年度100人当たり1.9件、2014年度100人当たり4.0件と増えました。これは比較的軽いけがでも大事を取って受診しているケースが増えたと考えられます。					
長 期	② 自転車による交通事故の発生数 * 年度末：全児童の事故報告集計及び 警察統計	下げる	0件	0件	0件
	自転車による交通事故の発生件数は、事故報告集計及び警察統計によるものです。2013年度0件、2014年度0件です。保護者・地域の見守りとともに、安全指導や毎日の一声運動をすることで、事故無く安全に過ごすことができます。				

3 評価方法と改善

それぞれの指標ごとに、成果を評価・分析するとともに、改善につなげます。

<短・中期的成果の指標>

評価指標	指標名	①評価方法 ②改善
1	けがの発生と要因の理解度	① 1年ごとに、年間指導計画に基づく安全指導の児童の変容を調査し自己評価を行います。 ② 学年ごとのけがの発生と要因の理解度を図り、安全指導計画の改善を行います。2014年度から他者評価も行います。
2	予防への意識・行動の変化	① 学期に1回、セーフスクール委員会が、全児童対象に同様の調査項目で、アンケート調査を行います。 ② 継続して調査結果を追っていくことによって、児童の意識と行動の変容をとらえ、児童会活動につなげます。
3	安全に関する意識と定着	① 学習前後と1年ごとに、児童の安全に対する意識を調査し、変容と定着率を評価します。 ② 実際のけがの予防対策と関連付けて、全教科の安全指導カリキュラムの作成・改善を行います。 2013年度から体育の授業中のけがの件数を減らすための授業改善を行います。
4	いじめの発生件数	① 毎月、4年生以上の児童は、なかよしアンケートによって、いじめの発生件数や実態をとらえます。1～3年生の児童には、担任が行動観察、口頭で聞き取ります。 ② いじめ解消に向けて、教職員が組織的に対応するとともに、いじめの原因分析と継続的な指導を行います。
5	自転車用ヘルメット着用率	① 毎月学年ごとに、ヘルメットの所持と購入件数を調査し、児童の着用状況と着用の推移をとらえます。 ② 児童集会でのキャンペーンを行うとともに、PTA主体の保護者アンケートを実施し、保護者への啓発を行います。
6	交通ルールの定着度	① 自転車安全教室や安全学習の前後に、交通ルールの定着度を評価します。年度末に全児童に交通ルールのアンケート調査を行います。 ② 指導内容の改善を行うとともに、学習終了時に自転車免許証にシールを貼り、一層の定着を図ります。
7	地域・通学路の交通安全	① 保護者による学校評価から、通学路や地域の安全について、アンケートを実施し保護者の危険意識をとらえます。 ② 地域の安全に関するワークショップを開催し、見守り体制を広げます。

<長期的成果の指標>

8	校内のけがの発生数・率	けがのデータに基づく予防意識を高めるとともに、安全指導カリキュラムを整備し、けがの発生数・率の減少を図ります。
9	自転車による交通事故の発生数・率	保護者・地域の見守りネットワークを広げ、児童の自転車による交通事故の発生数・率を減少させます。

指標 8 国内・国際的なネットワークへ継続的に参加している

1 国内ネットワークへの参加

- 2013. 7. 10 秩父市、北本市より ISS 集会視察[会場：本校]
- 11. 18 厚木市立清水小学校 ISS 再認証認証式典参加[会場：厚木市]
- 2014. 2. 28 台東区立金竜小学校 ISS 認証式典参加[会場：台東区]
- 3. 3 豊島区立富士見台小学校と交流[会場：富士見台小学校]
- 6. 4 朝日小学生新聞取材
- 8. 5 ISS 研修会[会場：本校]
- 9. 24 文化放送「福井謙ニグッモニ」出演
- 10. 17 日本テレビ「ニュースゼロ」取材 10. 23:放映
- 2015. 2. 10 青森県十和田市より先進地調査視察[会場：本校]
- 1. 14 東京都教育庁地域教育支援部より視察 [会場:本校]
- 6. 22 豊島区立富士見台小学校と交流[会場：本校]
- 9. 7 豊島区立富士見台小学校と交流[会場：富士見台小学校]
- 10. 7 大阪府松原市より先進地調査視察[会場：本校]

ISS 認証校として全国に発信

2014年6月セーフスクール認証校として、朝日小学生新聞の取材を受けました。セーフスクール委員会は、日頃取り組んでいる活動内容について説明しました。

また、保健委員会は、けがを減らすために取り組んでいる「ひやりマップ」の作成や毎月発行している「セーフニュース」について説明しました。

2014年9月に文化放送、2014年10月に日本テレビ「ニュースゼロ」で東京都教育委員の乙武洋匡氏から ISS について紹介され、本校の取組が全国に発信されました。



豊島区立富士見台小学校との交流

2014年に豊島区立富士見台小学校がISS認証取得を目指すことになったので、2014年3月に校長以下、セーフスクール委員会の児童、ISS推進委員の教員が富士見台小学校を訪問し、ISS認証校としての取組を紹介しました。

2015年6月、9月には児童会活動を中心に、子ども同士の交流を行いました。



2 国際ネットワークへの参加

2013.3月 台湾市の清心小学校の視察 2014.3月 台北市文山区訪問団が来校

台湾市の清心小学校の視察

台湾市の清心小学校の訪問では、台湾ISS先進校として安全教育の拠点校としての実績から多くのことを学ぶことができました。特に健康教育の取組が参考になりました。



台北市文山区訪問団が来校

豊島区の姉妹都市である台北市文山区の方々が、本校のISSの取組を視察に来ました。

第6章 安全で安心な学校づくりに向けて 今後の取組と展望

1 中・長期目標

- (1) ISS 認証校として、学校の安全・安心について国内外に発信していきます。
- (2) 根拠となるデータを基に、校内のけが、心のけが、交通安全等の予防策を積極的に進め、校内のけが、いじめの発生件数、校外のけがを減らします。
- (3) 児童が自ら危険を予測し回避する力を身に付け、防災対策・災害対応による自助・共助への役割分担を理解し、行動できるようにします。
- (4) 日常的に体力づくりに努め、児童の豊かな心と健やかな体を育成します。
- (5) 学校・保護者・地域が一体となり児童が安心、安全に生活できる学校・地域づくりに努めます。

2 今後の展開

- (1) セーフスクール委員会を中心に ISS 拡大委員会を機能させ、児童が主体の ISS 活動を進めます。
- (2) 校内組織を生かして、外傷データの継続的な分析・評価を行います。また、なかよしアンケートによるいじめ予防・早期発見に努めます。
- (3) 自転車ヘルメット着用率の向上を図ります。
- (4) 区民ひろばを拠点に地域との交流を図り、ISS の取組を発信します。
- (5) 子どもの安全点検マップを工夫・改善しながら、交通安全・防災・防犯への意識を高めます。
- (6) 国内外のネットワークを広げ、ISS 認証校、ISS 認証を目指す学校と交流し、「子どもサミット」を行います。